

ウルトラマンジードリップキス（打ち切り）

アッホマン

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

キオ「この作品は僕がウルトラマンジードになって光葉台を守るヒーローとして戦います、以後お見知りおきをしてください！」

作者「いや、ガンダムAGEが10年たって大感謝、僕は嬉しいよ！」

キオ「作者さん、僕をウルトラマンジードリップキスの主役にしてくれてありがとうございます！」

作者「なんのなんの、僕もキオ君が大好きで嬉しいよ！」

キオ「それではジーツとしてもドーにもならない！」

すみません、この作品は打ち切りです、リメイク版を作りますので申し訳ありません

# 目次

キャラ紹介！	1
プロローグ	5
僕らだけの秘密基地！	7
僕の戦う覚悟！	18
再開はコンビニエンスゼロ！	33
編入初日！	50
付かず、離れず、近づいて！	76

## キャラ紹介！

キャラクター紹介

キオ・アスノ

この物語の主人公、16才、身長は175cm、かつて地球とヴェイガンの争いを止めたフリット・アスノの孫でアセム・アスノの息子、イゼルカントが最後の言葉の人と人がわかり合う未来の為にオリバーノーツの中学を卒業後、オリバーノーツを離れ、キオはウエンデイの叔父がいる、日本の東京の光葉台でボランティアのアルバイトと高校生を自分なりに頑張っている、ある日、人工知能A.I.レムに導かれ、地下の秘密基地に入り、ジードライザーとウルトラカプセルを貰い、光葉台に怪獣が現れ、キオはウルトラマンのカプセルとウルトラマンベリアルのカプセルをジードライザーにスキャンしてフュージョンライズし、ウルトラマンジードになる、何故？キオがウルトラマンジードになれたのかはまだわからない、でもキオは皆を守る為に戦うと決めた。

使用できるカプセル

ウルトラマン

ウルトラマンベリアル

物語で手に入れるカプセル

ウルトラマンレオ

ウルトラセブン

ウルトラマンヒカリ

ウルトラマンコスモス

ウルトラマンメビウス

ウルトラマンオーブ  
スペシウムゼペリオン

ルナミラクルゼロ

ウルトラマンティガ

ウルトラマンガイア (V2)

アストラ

ウルトラの父

ウルトラマンゼロ

ウルトラマンキング

ウルトラマンオーブエメリウムスラッガー

ウルトラマンジャック

ウルトラマンエース

ウルトラマンタロウ

ゾフィー

変身アイテム

ジードライザー

ウルトラマンジードプリミティブ

ウルトラマンとベリアルのカプセルをジードライザーにスキャンしてフュージョンライズした姿、白と黒のバランスタイプ、最初になった頃は戦い方がまだ慣れてなかったがキオはキオなりの戦い方で倒す、必殺技はレッツキングバースト。

ウエンディ・ハーツ

キオの幼なじみでこの作品のキオのヒロイン、身長はキオと同じ175cm、キオが自分の目標を見つけて自分も将来は人の命を守るためキオと一緒に光葉台に行つてキオと叔父のダニーのボランティアのアルバイトのお手伝いや医療について勉強する。

立石総司

キオの友達にしてウルトラマンゼロに変身する高校生、身長は175cm、不真面目ではなく真面目すぎもせず成績の中の中、幼い頃に妹まゆりと過ごした光葉台に再び戻ってきて幼なじみの五ヶ谷奏撫と再開、ほどほどに優しく、ほどほどに人間関係は鈍いが女性からの好意に関しては否定気味だが親友の平山圭介とキオとウエンディが女性からの好意に関するの相談にもものってる、1年前、光葉台に来る前の頃、車にひかれそうになった子供の命を守ろうとかばうが、粒子体になったゼロが2人の命を守って消えそうだがゼロが総司の体と一心同体になり、ゼロに変わるとなんだかワイルドな性格になり、幼

なじみの奏撫とクラスメイトの双葉咲希達を守る。

変身アイテム

ウルトラゼロアイNeo

ウルトラマンゼロ

総司がウルトラゼロアイNeoを使って変身するウルトラ戦士、かつてウルトラマンベリアルを倒したウルトラセブンの息子、ゼロはウルティメイトイージスを装着、タイプチェンジも出来るが、1年前にキオと総司のいる宇宙に着いたときのダメージがあつてウルティメイトイージスは纏えないがタイプチェンジは出来るが戦えるのは2分しかない、ゼロスラッガーを使った戦術とウルトラマンレオ直伝の拳法を使う技が出来る戦い。

ペガツサ星人ペガ

キオとウエンディの友達でペガツサ星人、人影の中に入ることが出来る、ウエンディの叔父のダニーの相棒のピグモンや両さんの相棒のヒョン吉とは仲が良い。

AIレム

キオ達の秘密基地を管理するAI、キオにジードライザーを託し、怪獣の分析や解析も出来る、偵察機ユートムを使って調査もすることもできる。

小野ユーリ

この作品のオリキャラでキオと総司の敵、身長はキオと同じ175cm、紫の髪の毛の少年、年齢は総司と同じ年齢、表の顔は高校生にして最年少小説家、裏の顔はウルトラマンベリアルの部下、光の国から強奪したジードライザーと怪獣カプセルを使って光葉台を支配しようとする企んでた。

変身アイテム

ジードライザー紫

スカルゴモラ

ユーリがゴモラとレッドキングのカプセルを使ってフュージョン

ライズしたベリアル融合獣、ゴモラとレッドキングの融合した姿。

リトルスター

リトルスターとは人の体内に宿った光、リトルスターに宿った人物は炎を出せたり、水を出せたり、手刀やらも出せる、小野ユーリはリトルスターを奪って悪に利用すると企み、更には総司の幼なじみの奏撫と総司の妹の友達で顔馴染みの双葉唯犁を狙う。

クライシスインプクト

数年前にあつた悲劇、宇宙や地球を支配しようとしたベリアルが超時空弾道爆弾を使って宇宙と地球は崩壊寸前だがウルトラマンキングが自ら光になり、宇宙と地球は一時平和になった。

## プロローグ

数年前の光の国周辺の宇宙

？「フハハハハ、ハハハハ！」

復活した悪のウルトラマン、ベリアルが宇宙を支配しようと企み、襲撃。

光の国M78星雲では科学長官のウルトラマンヒカリがこの戦いを終わらさべくウルトラカプセルというアイテムを開発した、このウルトラカプセルにはウルトラマン達の力が宿ったアイテム。

崩壊寸前の地球では。

？「ベリアル、お前をここで倒してやる！」

ベリアル「望むところだ、ウルトラマンゼロ、捻り潰してやる！」

ウルトラセブンの息子のウルトラマンゼロがベリアルと対決し始め、ウルティメイトを纏って対決したが。

ベリアル「フハハハハ！」

ゼロ「ぐわあああ！」

ゼロとベリアルは相打ちになり、ウルトラマンレオとウルトラセブんとゾフィー達が駆けつけてベリアルと対決しようとするが。

ベリアル「超時空弾道爆弾、起動！」

ベリアルは超時空弾道爆弾を使って地球と宇宙を破壊し、爆破寸前にウルトラ戦士達は全員脱出するがベリアルは超時空弾道爆弾の爆破もろとも消え、宇宙と地球は崩壊しかけた。

ゼロ「何とかしねえと！」

セブン「行くな、この宇宙は、もうもたない！」

ゼロ「くっ！」

そこでウルトラマンキングが自らの体を光に包み、宇宙と地球を修復し、宇宙と地球は平和になったが。

？「フフフ、こいつさえあれば僕はベリアル閣下の野望の為に使える、誰も閣下の邪魔はさせない！」

紫の髪の少年が光の国に侵入して開発したアイテム、ジードライ



ザーと多数のウルトラカプセルを奪って去った。

これが数年前にあったクライシスインプクトの悲劇

宇宙と地球を修復してから数年後、16年後、アスノ家は地球連邦とヴェイガンの戦争を終止符と共存になり、平和になる

オリバーノーツ空港

空港には茶色い髪の少年と金髪の少女、見送りには金髪の男性と茶色い髪の女性と緑の髪の老人がいた。

？「それじゃ母さん、父さん、フリットじいちゃん、行ってきます！」

？「キオ、日本に行ったらちゃんとウエンデイの叔父さんの言うこととの聞くのよ、いいわね?!」

キオ「大丈夫だよ母さん、僕はもう高校生になるんだから、それにウエンデイがいるよ！」

？「ロマリー、キオの事はウエンデイもいるから心配するな、キオは目標を見つけて人と人がわかり合える未来の為に頑張るからな！」

ロマリー「そうね、アセム、キオはやれば出来る子よ！」

フリット「ウム、そうだな、私もマーズレイを無効する研究開発を頑張るぞ！」

アセム「父さん、あまり無理はするなよ、母さんも心配するからな！」

フリット「私はまだまだ元気だぞ！」

アナウンス「間もなく、日本東京行き空港が15分発進いたします、お乗りの方はお急ぎ下さい！」

ウエンデイ「キオ、行きましょう！」

キオ「うん、それじゃ母さん、父さん、じいちゃん！」

フリット「気をつけるんじやぞ！」

アセム「日本で頑張れよ！」

ロマリー「連絡とかしてね！」

キオ「うん、それじゃ行ってきます！」

キオとウエンデイは手を振りながらアセム、ロマリー、フリットに別れを告ぎ、日本東京行き空港に行った。

僕らだけの秘密基地！

あれから1年後

光葉台商店街

キオ「ダニーおじさん、ここの部品は燃えないゴミに置くんですか?!」

ダニー「ん？ああ、壊れた部品だからな、俺が見るから置いといて！」

キオ「わかりました！」

白いジャンパーと青いジーパンを着てる少年、キオ、キオはウエンデイと日本の光葉台でボランティアのアルバイトをし、私立光葉台学園に通って勉学も頑張っていた。

ウエンデイ「ダニーおじさん、ドラッグストアのお手伝い終わったわよ！」

ダニー「ああ、ありがとうウエンデイ、助かったよ！」

ウエンデイと話してる金髪の男性、ダニー・ハーツ、ウエンデイ、ハーツの叔父、ウエンデイが6歳の頃に日本でボランティアをしようとして住んでいたオリバーノーツから上京し、経営、現在は妻と8歳の息子と暮らしてる。

？「ピグピグ！」

ダニー「ああ、ピグモン、こっちは燃えるゴミの方へ置くんだぞ！」

ピグモン「ピグピグ！」

ダニー「よし良いぞ！」

ダニーに懐いてる赤い生物ピグモン、実はピグモンは2年前、瀕死の状態なり、ダニーが命を救い、現在はダニーのお手伝いをしていた、ダニーの息子も懐いて喜んでた。

光葉台学園1年生女子「ダニーさん、こんにちは！」

ダニー「おう、こんにちは、土曜なのに学校行ってるな、部活帰りののか?!」

光葉台学園1年生女子「はい、私の部活はテニス部です、あっ、紹

紹介します、双葉咲希先輩、テニス部の部長とクラス委員長を努めています！」

咲希「初めまして、双葉咲希です、ん?!」

咲希はダニーに自己紹介すると同時にダニーの後ろにいるキオとウエンデイにきづき。

咲希「アスノ君?休日なのに頑張ってるね!」

キオ「あっ?双葉さん、学校帰り?!」

咲希「うん、後輩とテニスの練習してたから帰りなの、アスノ君は何してるの?!」

キオ「ウエンデイの叔父さんのボランティアアルバイトのお手伝いをしてる!」

ピグモン「ピグピグ!」

ピグモンは咲希と後輩の所まで歩いていき。

咲希「きゃあ、ピグモン可愛い!」

咲希と後輩はピグモンに可愛いと言いながらふれて触り。

ダニー「よし、咲希ちゃんと後輩ちゃん、アイス買ってくるからちよつと待つてな!」

ダニーは商店街近くの店に行ってアイスを買に行き。

咲希「アスノ君とウエンデイちゃんも光葉台に来て1年たったね、学園の勉強は頑張ってる?!」

キオ「1年生の頃はまだ慣れてなかったけど双葉さんが教えてくれたお陰で僕とウエンデイは慣れたよ、ありがとう!」

咲希「良いのよ、私だって教えたい時あったから!」

ウエンデイ「さすがは私達のクラス委員長!」

咲希「やだもく、誉めてくれて、私も嬉しい!」

ダニー「お待たせ、キオとウエンデイの分も買ってきたよ、カップアイス!」

キオ「ありがとうございます!」

ダニーは買ったアイスをキオ達に渡し。

光葉台学園1年女子「ん?ダニーさん?これ溶けてます?!」

咲希「えっ?どうなってるの?!」

後輩がアイスを開けると中身は溶けてた。

数分後、光葉台マンション

光葉台に来てからキオはダニーの隣の部屋で1人暮らし、ウエンデイは叔父のダニーと家族の所に住み、夕食の時はキオが来て一緒に食べる、マンションはILDK。

？「冷凍庫、ペガが直すよキオ！」

キオ「やめとこうよ、お店の人は冷凍庫が壊れてないけど、もしペガが直したら大変なことになるよ！」

キオの影から現れた星人、ペガツサ星人のペガ、キオとウエンデイが光葉台来てから友達はいなかったがキオが友達になって一緒に暮らしてる。

キオ「それにペガが宇宙人だと皆も驚くよ！」

ペガ「キオは人間だからいいよ！」

キオ「それはそうだよ、僕らは人類でいい人たち、あつ！」

ピッ

キオはおやつを食べながらテレビを見る、キオが見てるのは機動戦士ガンダムSEEDDESTINY。

キオ「やつぱりカッコいいね、シン・アスカとキラ・ヤマトとアスラン・ザラは僕らにとっての英雄だよ！」

ペガ「そういうキオだって地球連邦軍とヴェイガンの争いを止めてくれた救世主だよ！」

キオ「そうだね、僕がじいちゃんを説得したから平和に争いのない世界になったんだ！」

ウゥウゥ

突然のアラートが鳴り出した。

キオ「何だ？急にアラートが鳴ってる?！」

キオが窓を開けるとそこには巨大怪獣が出現した。

キオ「えっ？怪獣?！」

？「ギャオー！」

怪獣は暴れて光葉台を襲撃。

ペガ「あつ？キオ？何処に行くんだよ?!」

キオ「ウエンデイと叔父さんの所、もし来たら大変かもしれない！」  
ペガ「待って、ペガも行くよ!」

ペガもキオの影に入りキオは玄関のドアを開けてウエンデイとダニーの所に行く。

ダニー「皆さん、慌てないで、光葉台避難所はすぐそこだから!」

キオ「ウエンデイ？叔父さん!」

ダニー「おお、キオ？来てたのか?!」

キオ「はい、ウエンデイと叔父さん達が心配でつい!」

ウエンデイ「キオ？叔母さんが危ない?!」

キオ「はっ、叔母さん危ない?!」

キオは怪獣に踏み潰されそうな一瞬にダニーの奥さんを間一髪救った。

キオ「叔母さん？大丈夫ですか?!」

ダニーの妻「キオ君、ありがとう!」

キオ「息子さんの方は?!」

ダニーの妻「心配しないでピグモンと先に光葉台避難所に行ってるわ!」

キオ「良かった、さあ行きましょう!」

夕方、光葉台避難所

ウエンデイ「キオ、双葉さんの方は連絡して家にいるわ、お父さんとお母さんと妹と一緒に、五ヶ谷さんの方も家にいる、平山君の方も被害はなかったよ、キオ?!」

キオは体育座りして落ち込むようになる。

キオ「僕に皆を守る力があれば光葉台の街を救えるのに!」  
すると。

キオ「ん？何だ？この球体は?!」

キオに近づいて来たのは金属の機械の球体、その球体はすぐまた何

処かに行った。

キオ「今の？何だったんだ？追いかけてよう！」

ウエンデイ「ん？キオ？どこ行くの?!」

キオ「あの球体を追ってくる、なにやら僕に用があるかもしれない！」

ウエンデイ「待って、私も行く！」

ウエンデイもキオの後を追いかけて一緒に行く。

光葉台天文台

ウエンデイ「天文台？ここにあの球体が?!」

キオ「うん、僕の感が予感したらあの球体はこの天文台に違いない！」

ペガ「ペガもワクワクするよ！」

ウィーン

キオが天文台に近づくと赤い赤外線がキオをスキャン。

？「照合スキャン確認完了、あなたがマスターですね？、なかにお入り下さい！」

スキャンが終わりドアが自動に開き。

キオ「何か解らないけど、とにかく入ろう！」

ペガ「うん！」

ウエンデイ「そうね、気になるわね！」

キオ達は中に入ると、エレベーターのように下に降りてドアが開くと。

キオ「ここは？何処なんだろう?!」

ウエンデイ「多分、地下室みたいな施設よ！」

ペガ「スゴい、秘密基地みたい！」

？「ようこそ私は管理AIのレムでございます！」

ウエンデイ「うわっ？喋った?!」

黄色い玉のAIが自己紹介し、ウエンデイはそれを見て驚いた。

キオ「僕はキオ、キオ。アスノ、宜しくレム！」

レム「確認しました、名前はキオ。アスノ、ウエンデイ。ハーツ、そしてペガツサ星人のペガですね！」

ペガ「うわっ？僕たちの名前も知ってる？凄いよ！」

ウエンデイ「え……ええ、凄いねレム！」

レム「それでは、キオ、あなたを今から分析します、宜しいですか?!」

キオ「構わないけど痛くしないでね！」

レム「問題ありません、スキャンで分析確認するだけで終わらせませす！」

ウエンデイ「ちょっと待って、本当に分析だけよね?!」

レム「はい、分析するだけで体内チェック、血液の確認だけでございます、ではスキャンします！」

レムはキオに光を浴びてスキャンし分析、血液の確認をする。

レム「確認終了、あなたはウルトラマンになります、これを受け取ってください！」

レムは机のところからあるもの転送、そうこれはジードライザーとウルトラマンとウルトラマンベリアルの描かれたカプセルと何も描かれてないカプセル2つと装填ナツクルだ。

キオ「僕がウルトラマン?どういう事なんだ?!」

レム「貴方は運命に選ばれました、戦うかは貴方次第です！」

ペガ「ん?大変だ?光葉台市街地にまた怪獣が現れたよ！」

キオ「……行ってくる！」

キオはジードライザーとウルトラカプセルを持って外に出る準備し。

ウエンデイ「キオ、行くのね?!」

キオ「うん、怪獣から光葉台を守らないと、今は……僕は迷っては  
いられない！」

ウエンデイ「キオ！」

キオ「レム、目的地まで行ける?!」

レム「可能です、この地下基地は光葉台や全国と繋がっております

！」

キオ「ありがとう、じゃあ行ってくる！」

ペガ「キオ、気をつけて！」

キオ「心配しないで、皆を守って帰ってくるよ！」

キオはエレベーターに乗って地上に上がる。

### 光葉台市街地

一瞬で現場につき、キオは街の景色を見ると、怪獣が暴れてる所を見る。

キオ「レム、あの怪獣は何だ?！」

レム（解析した結果、名前はスカルゴモラです!）

### 亀有公園前派出所

派出所のテレビでニュースを見るカモメの眉毛で腕まくりした警官と黄色の警官とピンクの婦警と巨大緑ガエル。

?「うくん、何だか大変な事になるな！」

?「そうね、大原署長さんに聞いて対策しましょう！」

?「うちの会社も協力を要請します、両津新部長！」

両津「ああ、そうだな、中川、頼むぞ！」

中川「了解です！」

両津「麗子、わしらは現場に行くぞ、ヒョン吉、行くぞ！」

ヒョン吉「ゲコ！」

麗子「圭ちゃん、留守をお願い！」

中川「了解、麗子さん達も気をつけて！」

両津と麗子はヒョン吉に乗って現場に向かう。

キオ「僕が皆を守るんだ、ジーツとしててもドーにもならない！」

キオ「融合！」



ウルトラマン 《シユワ》

キオ 「アイゴー！」

ウルトラマンベリアル 《ヘアア》

キオはウルトラマンとベリアルのカプセルのスイッチを押して装填ナツクルにつけ。

キオ 「ヒア・ウイゴー！」

《フュージョンライズ》

キオは装填ナツクルにつけたウルトラマンとベリアルのカプセルをジードライザーにスキャン。

キオ 「決めるよ覚悟、はあー、はっ！」

キオはジードライザーをトリガーを引いて力を解放。

キオ 「ジイイイド」

《ウルトラマン》

《ウルトラマンベリアル》

《ウルトラマンジードプリミティブ》

ジード 「シユワ！」

ウルトラマンに変身したキオは地響きのように着地する。

レム 「フュージョンライズ、成功！」

ウエンディ 「ねえ、これがキオが変身した姿?!」

ペガ 「あれって?!」

ウエンディとペガは基地でキオが変身したウルトラマンを見て驚く。

キオ (これが？僕がウルトラマンに変身した姿?!)

レム (それがキオ、貴方が変身した姿です！)

ダニー 「何だ？ベリアル?!」

一般人 「やだ？怖い！」

ざわざわ

ダニー達は避難所からジードの姿を見て不安になる。

ジード 「行くぞ、シユワ！」

ジードになったキオはスカルゴモラまでジャンプして近づき、戦いを始める。

ジード「シユワ！」

キオはスカルゴモラに向かってパンチするが効かない。

ジード「うわっ！」

キオはスカルゴモラの突進をくらってビルに衝突、スカルゴモラはキオに向かって進みだし、キオはすぐに立ち上がってタックルし、そのまま持ち上げようとするが、重くてできないが押し返そうとするが弾かれて尻尾の攻撃をくらって倒れる、攻撃を転がって回避し、フアイティングポーズをとった。

キオ（それならスピードで行くよ！）

今度はスカルゴモラの腹に向かって前蹴りで攻撃、そのまま側転しバク転、背中に向けて飛びかかるが簡単に振り落とされ、体勢を整えたところにまた突進攻撃で迫ってきた。

キオ（同じようなことはくならないぞ！）

キオは頭を押さえて防いだが。

ジード「うわあああ！」

スカルゴモラの角が赤く発光し、凄まじい衝撃に吹き飛ばされる。

キオ（どうなったんだよ？怪獣を持ち上げようとも、手も足も出せない！）

ピコンピコンピコン

ジードの胸のカラータイマーが赤く点滅し始めた。

レム（間もなく活動限界です！）

キオ（活動限界?!）

レム（この地球上でウルトラマンでいられる時間は3分、次に変身できるのは凡そ20時間です！）

キオ（何とか倒さないと！）

キオは頭にビジョンを浮かんで倒す方法を考えている。

キオ（よし、思い付いた！）

## GEEDの証♪♪

キオはスカルゴモラの頭上を飛び越えて進行方向を防ぐように立ち、スカルゴモラが赤く発光して突進。

キオ（これでもくらえ！）

ジードの体から赤と黒のエネルギーが稲妻のように発光し、交差した両手をそのまま頭上に突き上げていくとエネルギーがチャージし、両手を左右に広げて全身に行き渡らせ。

ジード「デエア！」

チャージしたエネルギーを両手に集中し、十字に組んで発射、赤い光線がスカルゴモラに直撃、少しの間浴びるとスカルゴモラは爆散。

キオ（はあはあ、勝った?!）

レム（はい、先程の光線はレッキングバーストです！）

キオ（良かった、双葉さんと五ヶ谷さん達の街を守れた！）

キオは皆がいる光葉台の街を守って力をつき、変身を解けて倒れ。ウエンデイ「キオ？大丈夫?!」

ウエンデイが駆けつけてキオを持ち運ぶように歩いた。

？「あいつ、戦いを慣れてないようだな、次は確実に仕留めるよ、フフフ！」

紫の髪の少年がキオを見て冷静に笑う。

ペガ「レム？どうしてキオはウルトラマンジードになったんだよ？教えて?!」

レム「解析した結果によると彼の体にはベリアル因子が宿ってる可能性があります！」

ペガ「まさか？キオは?!」

レム「はい、彼の体のデータはウルトラマンベリアル！」

レムはペガにキオの体についてそう答えた。

ウルトラマンベリアル（フハハハハ、ハハハハ！）

## 僕の戦う覚悟！

キオのマンションの部屋

キオ「はあはあはあ！」

キオはベッドでひどくうなされている。

キオの夢の中

キオ（ここは？ 一体？ はっ?!）

キオが夢の中で見えた風景は、最悪な運命、そう住んでた光葉台の廃墟。

キオ（何かあったのかな？ 皆は何処なんだ?!）

キオは誰か生存者や知ってる人を探す。

キオ（ウエンディ？ 双葉さん？ 唯梨ちゃん？ 五ヶ谷さん？ ペガ？ 圭介？、ダニー叔父さん?!）

キオは叫んでも人影がいなかった、むしろこれは絶望になった風景。

？（フハハハハ！）

キオ（はっ？ 誰だ?!）

キオが後ろを振り向いて見ると後ろには黒い巨人、ウルトラマンベリアル。

ベリアル（俺の因子を宿った人間、お前はこの絶望からは逃げられない！）

キオ（そんなことはない、僕は光だ、闇じゃない！）

ベリアル（なら？ 自分のその体を見てみる！）

キオ（えっ?!）

キオが自分の体を見る、見えたのは、自分が変身したウルトラマンジードの姿。

ベリアル（お前がその姿になればたちまち闇に染めるだろう、そしてお前は絶望になるしかない！）

ジード（僕が？ 闇？ そんなの嘘だ？ 嘘だああああ！）

キオ「はっ?!」

キオが目覚めたら自分の部屋のマンションのベッド、キオは汗だくになり、目覚めた時刻は7時半だった。

キオ「夢か？何だったんだろう?!」

今日は日曜日、キオはシャワーを浴びて私服に着替えて朝食を食べる、朝食は自分で作った目玉焼き、焼いた食パン、牛乳。

キオ「昨日の僕の姿？何だろう?!」

ペガ「キオ、大丈夫?!」

ペガがキオの影から現れキオを心配し。

キオ「大丈夫だよペガ、昨日の戦いで疲れただけだよ!」

ペガは座って朝御飯食べ、テレビをつけてニュースが流れた。

女子アナウンサー「続いているのニュースです、昨日の夜、東京光葉台に現れたウルトラマンについての情報によると、目の部分は何やらベリアルに似ていますが？あのウルトラマンは何なのででしょうか？現場からお願いします!」

現場アナウンサー「はい、こちら現場からニュース、現在の午前、葛飾署の警官達が光葉台の街の現場調査をおこなっております、では、現場に駆けつけた公園前派出所の新部長の両津勘吉と中川圭一巡査に何か一言お願いします!」

両津「そうだな、昨日の夜、わしと麗子とヒョン吉が現場に駆けつけた時はあの怪獣はいなかったがウルトラマンが倒れかけて消えた所しか見てたぞ!」

中川「ええ、僕は派出所で留守を任されて電話で葛飾署の大原署長と連絡してて見ていません!」

現場アナウンサー「なるほど、現在の街の状況はビル及び住宅が多数被害にあったと!」

ピッ

キオはテレビを消す。

キオ「僕は皆の命を守って戦ってるのに！」  
ペガ「キオ?!」

ピンポーン

キオ「あつ、はい！」

?「キオ?いる?!」

キオ「あつ、ウエンデイ！」

玄関から声が聞こえたのはウエンデイ。

ガチャ

ウエンデイ「キオ?昨日は大丈夫?!」

キオ「えっ?何?!」

ウエンデイ「キオがウルトラマンになって怪我したところある?心配で来たんだからね!」

キオ「ああ、昨日の事?大丈夫だったよ、疲れがあっただけだよ!」

ウエンデイ「そう、良かった、キオ、朝御飯は食べた?!」

キオ「ん?今ペガと食べてる最中だよ、それに食べたらあの秘密基地に行つてレムに話そう、僕がウルトラマンになった理由を!」

数十分後、秘密基地

キオ「レム、どうして僕はウルトラマンジードになれたんだ?教えてよ!」

レム「解りました、解析によるとキオの体内にベリアル因子が宿つてる可能性ありました!」

キオ「僕の体にベリアル因子が宿ってる?!」

レム「はい、昨日に解析した結果によるとキオ、あなたの体にベリアル因子が宿ってます、ベリアル因子とはウルトラマンベリアルが体内にある細胞の事です!」

レムはキオに昨日の事を話し。

ペガ「昨日ボクがレムにキオの体について話したんだよ、キオの体にベリアル因子が宿ってる事を!」

ウエンデイ「それでキオはウルトラマンジードになったんだね?!」

キオ「……決めた、僕はウルトラマンにならない！」  
キオはウルトラマンにならないと自ら決め。  
ペガ「えっ？キオ？ウルトラマンにならないって？せつかく初めて  
なったのにどうして?!」

キオ「考えたんだ、僕が変身して怪獣が現れた時は街に被害があつて多数壊れるんだ、ベリアル因子が宿つて暴走するかもしれない、だから僕は僕なりに皆の救護や人の命を守ろうと決めたんだ！」  
ウエンデイ「キオ？本当にそれでいいの?!」

キオ「そうだ、ダニー叔父さんのボランティアに行かないと、また何かあつたら大変だから、レム、また明日来るよ！」

キオはウエンデイの言葉を無視してボランティアに行った。

次の日

私立光葉台学園

2年A組教室

男子生徒A「なあ？昨日のニュース見たか？光葉台に現れたウルトラマンと怪獣の話！」

女子生徒B「見た見た、ベリアルに顔が似てるウルトラマンでしょ?!」

男子生徒B「あの怪獣から光葉台を守ってくれたのか?!」

クラス全員はウルトラマンと怪獣の話題に話し。

？「キオ君、おはよう！」

キオ「あつ？五ヶ谷さん、おはよう！」

僕に話しかける同じ光葉台学園の制服を着てる少女、五ヶ谷奏撫、そのとなりは双葉さん。

咲希「土曜日の方は大丈夫なの？私の方はお父さんとお母さんと唯梨と家について大丈夫だったよ！」

？「俺の方は無事だったぜ、あのウルトラマンは俺達の味方なのか?!」

キオにウルトラマンの話題を話す少年、平山圭介、キオとウエンデイが光葉台に入学して初めて出来た男友達。



キオ「あつ、うん僕の方はウエンデイの叔父さん達とボランテイアの手伝いしてて光葉台避難所に！」

奏撫「私達の街を守ったウルトラマンというヒーロー？誰なのかな?!」

先生「えー、皆席に着け、授業を始めるぞ！」

先生が教室に入り皆はすぐに席に着く。

?「フフフフ、リトルスター、僕が手に入れるよ！」

キオ達が通ってる学園の校門を眺めてる紫の髪の少年。

キーンコーンカーンコーン

数時間後、キオ達の学園の昼休みになり。

咲希「あつ?アスノ君?私と奏撫は教室で一緒にお昼に食べるけど一緒に行く?!」

キオ「あつ、ごめん今日はウエンデイと外で一緒に食べるから、じゃあ！」

キオは咲希の昼休みの誘いを断ってウエンデイのいる外に行く。

奏撫「キオ君、珍しい、サキちゃんの誘いを断るなんて！」

咲希「幼なじみと一緒にお昼なんていいよね！」

学園の外、キオはベンチに座ってウエンデイとお昼を食べてる、キオのお弁当はウエンデイとウエンデイの叔母が作った同じ弁当おや?キオ弁当を持つてるのにパンを持つてるぞ。

ペガ「キオ、僕のお昼ごはん！」

キオ「ん?はいペガ！」

ペガがキオの影から現れてキオは購買で買ったパンを3つペガに渡して直ぐ様キオの影の中に入る。

ウエンデイ「ペガも連れてきたの?!」

キオ「だってペガ1人だと心配だから僕の影の中に入って登校して

る！」

ペガ「エへへ、キオの影の中に入れば楽だからね！」

ウエンデイ「もう咲希や奏撫には驚さないでね、授業中も！」

ペガ「大丈夫、隠れて授業見るだけだから！」

昼休みが終わって午後の授業が始まりキオ達は教室で授業している。

女教師「先生、大変です、現行犯が学園に侵入して1年A組のクラスが人質に！」

先生「何だと？、皆は自習してくれ！」

1年A組教室

教室には現行犯の男性一人とフードをかぶった男性一人が1年A組の生徒を人質にし、ちようどの事警察のパトカーが3台来て犯人確保の準備と包囲する準備する。

警官「犯人に告ぐ、人質を解放して大人しく連行しなさい、両手をあげて武器を下ろしなさい、君達は完全に包囲されてる、無駄な抵抗はよしなさい！」

警官がメガホンを使って犯人2人を説得しようとしたが。

犯人男性A「うるせー、お前ら警官なんか敵じゃねえ、やれ！」

フードの男性「……！」

フードの男性が1年の教室を降りてフードを脱ぐとナツクル星人だった。

警官A「ナツクル星人だ、撃て！」

ナツクル星人「ふん！」

警官達がナツクル星人に向けて銃を撃とうとすると警官達はナツクル星人の殴りや蹴りで圧倒され飛んで犯人男性の所に戻る。

犯人男性A「警察に要求だ光葉学園の1年生徒を助けたければ金を用意しろ、ただし用意しなければナツクル星人がコイツを殺害する！」

犯人とナツクル星人は警察に金を用意しろと伝え人質達を怖がら

す。

キオ「あの教室は双葉さんの後輩のクラス、何とかして助けられない！」

キオは犯人に気づかす後輩のいるクラスに侵入し。

両津「何事だ?!」

現場にきた両津部長達。

警官A「両津部長、中川巡査長、麗子巡査、来てたのですか?!」

麗子「ええ、両ちゃんがちよつと仕事を放り出して来てたから！」

両津「それを言うな麗子、わしだってやる時はやるんだ！」

中川「両津部長、それより現在の状況は?!」

警官B「現在の所、犯人2人が光葉学園の1年A組の教室を立てこもってます、1人は人間、もう一人はナツクル星人です、人質を解放要求は金を用意しろと！」

1年女子A「助けて！」

1年女子B「怖い！」

現行犯A「ギャアギャアやかましいぞ、撃つぞ！」

現行犯が1年女子二人に向けて銃を撃とうとすると。

1年女子「はっ?危ない！」

ポォー

双葉さんの後輩が手から炎を出して現行犯に攻撃。

現行犯A「なっ?あちい、炎を出しやがって！」

ナツクル星人「ならば俺が息の根を止める！」

キオ「そうはさせない！」

僕は現行犯に向けて勢い良くジャンプしタツクルし。

ガジャーン

現行犯A「うわあああ！」

現行犯はキオのタツクルでガラスが割れて落ちた。

ナツクル星人「おのれよくも！」

1年女子「アスノ先輩、避けて！」

僕は直ぐ様避けて双葉さんの後輩が炎を出してナツクル星人に向けて攻撃。

ナツクル星人「ぎやああ、助けてくれ俺は炎が嫌いなんだー！」

炎を浴びたナツクル星人は溶けた。

現行犯A「ああ、ナツクル星人！」

両津「よし今だ、確保だ！」

警官全員「了解！」

警官全員は今のうちに現行犯を連行して逮捕し。

? 「ほお、あの女、リトルスターを宿つてるとはこれは僕が頂くよ！」

紫の髪少年が何やら1年A組の教室を眺めて何やら企んでいた。

? 「ゴモラ！」

《ギャオー》

? 「レッドキング！」

《ギャオ》

紫の髪の少年がゴモラの絵のカプセルとレッドキングの絵のカプセルを出し装填ナツクルに入れそしてキオと同じジードライザーの紫を出してスキャンした。

? 「これでエンドワークだよ！」

《フュージョンライズ！》

《ゴモラ！》

《レッドキング！》

《ウルトラマンベリアル！》

《スカルゴモラ！》

スカルゴモラ「ギャオー」

紫の髪の少年がスカルゴモラにフュージョンライズして光葉台の街を襲撃し始める。

キオ「スカルゴモラ？双葉さんと五ヶ谷さん達を体育館に避難させないと！」

ウエンデイ「キオー！」

キオ「ウエンデイ?!」

ウエンデイが僕の名前を言つて僕はウエンデイと合流。

ウエンデイ「キオ？どこに行つてたの？咲希も私達もキオがいなかったから心配してたのよ！」

キオ「ごめん、双葉さんの後輩のクラスが心配だから侵入して助けたんだ、今から双葉さん達を体育館に避難させるよ！」

ウエンデイ「待つてキオ、これ！」

キオ「これは?!」

ウエンデイが僕に持つてきたのは登校する前に自分の部屋に置いてあつたジードライザーとウルトラカプセルが入つたホルダーと装填ナツクル。

キオ「ジードライザー？自分の部屋に置いてたのどうしてウエンデイが?!」

ウエンデイ「実はキオが学園に行く前にペガがジードライザーを持つて私に渡してつてお願いしたの、キオ、皆を守るために戦つてー！」

キオ「嫌だよ、僕はウルトラマンにならないと決めたんだ、僕は僕なりに人の命を守りたいんだ戦いたくない！」

ウエンデイ「キオのバカ、キオは皆のためにせっかくウルトラマンになつたのにどうしてならないの？私ねキオが皆の住んでる街を守るところが好きなのよ！」

キオ「ウエンデイ！」

ウエンデイは僕のために怒つた、僕がウルトラマンになるために説得すると。

キオ「ウエンデイ…ごめん、やっぱり僕はウルトラマンになつて皆を守る、例えば僕がベリアル因子で暴走しても僕は戦うと決めた！」

キオはウエンデイに向かつて覚悟を決めたような顔つきになり

ジードライザーとウルトラカプセルが入ったホルダーと装填ナックルをすぐに受け取り。

キオ「行ってくる、ペガ、ウエンデイの影に隠れて！」

ペガ「うん、わかった！」

ペガはキオの影を離れてウエンデイの影に入りキオは学園に出た。ウエンデイ「キオ、気をつけてね！」

両津「中川、わしらは怪獣に向けて銃を撃つ、麗子は警官達の犯人輸送護衛するのを頼む！」

麗子「ええ任せて両ちゃん！」

両津「中川、行くぞ！」

中川「はい両津部長！」

麗子は警官達と犯人をパトカーに乗せて署まで輸送し両津は中川と残りの警官と一緒にスカルゴモラに向けて銃を放つが銃弾が効かなかった。

両津「何？効かない?!」

スカルゴモラ「ギャオオオ！」

中川「はっ？両津部長危ない！」

スカルゴモラに踏まれそうになった両津を中川が間一髪救ったのだ。

両津「助かったぞ中川！」

中川「いえ、ん?!」

中川は学園の外にいるキオに気づく。

キオ「そうだ、僕は救世主フリット。アスノの孫でアセム。アスノの息子、僕は皆の命を守るために戦う！」

キオ「融合！」

ウルトラマン 《シユワ》

キオ 「アイゴー！」

ベリアル 《ヘアアア》

キオ 「ヒア・ウイゴー！」

《フュージョンライズ》

キオ 「決めるよ覚悟、はあー、はっ！」

キオはトリガーを引いて力を解放。

キオ 「ジイイイド！」

《ウルトラマン》

《ウルトラマンベリアル》

《ウルトラマンジード、プリミティブ》

ジード 「シユワ！」

キオはウルトラマンジードに変身。

体育館では

1年男子 「おいウルトラマンだぞ！」

1年女子 「ホントだ今TVで中継してる！」

皆は体育館でスマホのTVを見てジードとスカルゴモラの姿を見る。

奏撫 「サキちゃん？ユイちゃんのクラスは大丈夫なの?!」

咲希 「唯犁の方のクラスは大丈夫だけど私の後輩の方のクラスが大変だったの一体誰が守ったのかな?!」

ジード 「行くぞ、シユワ！」

ジードになったキオはスカルゴモラと対決し始めるスカルゴモラの腹に向けて右ストレートするが効かない。

スカルゴモラ 「ギャオオオ」

ジード 「うわっ！」

スカルゴモラは尻尾をふってジードに命中しビルを破壊しジードはまた立ち上がり。

ジード 「僕は皆を守るんだ！」

次にキオはスカルゴモラに向けてタツクルしビルもろとも衝突し

倒れスカルゴモラは角から赤く発光しジードに命中。

ジード「デユアアア！」

キオは吹き飛ばされ歩道橋に命中し破損。

スカルゴモラ「ギャオー！」

ピコンピコンピコンピコン

ジードのカラータイマーが赤く発光しキオは倒れかける。

キオ（僕は救世主だ、住んでる光葉台の皆の為に負けない！）  
すると

1年女子高校「頑張れウルトラマン、私は応援してる頑張ってる！」

キオ（あれは双葉さんの後輩？僕を応援してくれてるのか?!）

双葉さんの後輩が僕の戦うところに来て応援しだすと。

2年男子生徒「負けるなウルトラマン、お前はそれでもヒーローか?!」

1年男子生徒「頑張れウルトラマン！」

3年男子生徒「負けるな！」

2年女子生徒「光葉台学園を守って！」

光葉台学園の皆が僕を応援しに駆けつけた。

キオ（皆、僕を応援してる、そうだ、僕はまだ諦めるわけにはいかない！）

キオは皆の応援が聞こえ立ち上がる。

ウエンディ「キオ頑張ってる！」

GEEDの証♪♪

ジード「シユワ、シユワアアア！」

キオは立ち上がった後スカルゴモラに負けないパンチやキックしスカルゴモラは少し苦戦。

スカルゴモラ「ギャオオオ！」

ジード「その攻撃は何度も食らわなごぞ！」

キオは一度受けたスカルゴモラの尻尾攻撃を直ぐ様バク転して避けたあとパンチ。

1年男子生徒「行け〜！」



3年女子生徒「頑張って！」

咲希「頑張ってウルトラマン！」

圭介「良いぞー！」

奏撫「負けないで！」

1年女子「頑張って！」

スカルゴモラ「ギャオオオ！」

スカルゴモラが体から赤いエネルギーが発生しジードに向けて突進するがジードはその攻撃を両手で受け止め。

キオ（よし、これなら！）

ジード「デュアアア！」

キオはスカルゴモラの攻撃を受け止めながらエネルギーが発生これは？。

ジード「レッキングバースト！」

キオは至近距離でレッキングバーストを放ちスカルゴモラは爆破。

2年男子生徒「やった、やったぞウルトラマンが勝ったぞ！」

全員「わああああ！」

光葉台学園の皆はジードが勝ったことに喜び。

1年女子生徒「ありがとうウルトラマン、あっ?!」

双葉さんの後輩の体から黄色い光が現れその光をジードのカラータイマーに入りキオのカプセルホルダーに入って開けると。

《デュアアア！》

キオ（これは?!）

レム（お疲れ様ですキオ、それはリトルスターから手に入れた力です！）

僕が手に入れたウルトラカプセルはウルトラマンレオ、炎の力を宿ったウルトラ戦士、まさか双葉さんの後輩が炎を出したのはこれなんだ。

？「はあはあ、アスノ家のキオ。アスノ次こそは必ず仕留めてあげるよ！」

紫の髪の少年は息が切れながらそう言って去った。

光葉台学園の校門

スカルゴモラを倒して数10分後、僕は校舎に入って教室に戻ろうとする。

中川「その君？ちよつと聞きたいことがあるんだけどいいかな?!」

キオ「えっ?何ですか?!」

両津「あのウルトラマンについて詳しく聞かせてもらうぞ、授業を終わってからな!」

キオ「えっ?!」

そして数時間後、僕らの学園は授業を終わり下校時間となって僕はウエンディとペガと一緒に両さん達公園前派出所の皆さんに天文台の地下基地を案内した。

寺井「スゴい?ここが地下基地なんだね?!」

キオ「ここでは怪獣が現れた時に現地まで行けたりできます!」

ペガ「ここではおやつやガンプラやゲームも出来るよ!」

中川「君がAIのレムだね?僕は中川圭一、宜しく!」

レム「はい、宜しくお願います両津部長、中川巡查長、麗子巡查長、寺井巡查、ヒョン吉!」

ヒョン吉「ゲコ?!」

麗子「スゴい?私達やヒョンちゃんまで覚えてるわ、ねえレム?ここってお料理とかお菓子とか作れるかしら?!」

レム「可能です、材料を持って来たら厨房モードも出来ます!」

両津「じゃあレム?競馬とかパチンコの予想出来るか?!」

レム「可能です!」

両津「よし、大儲け確率だ!」

ウエンディ「両津さん、レムを使ってギャンブルはやめてください

！」

両津「あつ、悪い！」

全員「アハハハハ！」

こうして僕らは秘密基地の名前を光葉台青雲荘にし僕らは両さん達派出所の皆さんと一緒に手伝うことになった、あの事件から1日が過ぎ、水曜日、僕らが通つてる学園の方は1日休校になり、明日から通えることになった。

キオ「あの？高校生にして小説家の小野ユーリさんですよ？あの、クラスメートの双葉さんと僕の友達があなたのファンですサインを貰つても宜しいですか?!」

小野ユーリ「ええ、お二人分お書きします！」

小野ユーリは鞆から色紙を二つ出してサインを書いてキオに渡す。

キオ「ありがとうございます！」

小野ユーリ「いやいや、僕の小説を読んでもくれた人にありがとう、僕は嬉しいよ！」

キオは小野ユーリと握手。

小野ユーリ？（ククク！）

やはり小野ユーリは心の中でたくらむ顔をした。

続く

再開はコンビニエンスゼロ！

??side

キスは、青春の憧れ、恋の象徴、愛の儀式。

古今東西、恋愛ドラマ、恋愛漫画では特別な行為とされ、少年少女は誰もが愛しい人との口づけに夢を見る。

? (ねえねえ、?ちゃん、キスしよ)

? (う、うん……ちゅっ)

幼い日の過ちは、なかったことにしてほしい。

親の悪影響で覚えてしまったお遊戯感覚のキスなんてノーカウントだ。

キスは、青春の憧れ。恋の象徴。愛の儀式。

幼い日の過ち、気の迷い、気まぐれな神様のイタズラで交わってしまった、一度きりの初めてを、大切なキスを。

もう一度、やり直すことはできるのだろうか。

? 「ふう……とりあえず、寝床は確保、と」

引越し業者が運んでくれた段ボールも、必要なものはおおかた開封し、俺、立石総司は自分の部屋は部屋らしい形に整い、心地ついた。

今日からはここが俺の新たな根城だ。といっても、数年前の出戻りだけとな。

一通り片付けて落ち着いたら、急に思い出して小腹がすいてきた。  
? 「うえーん、あにい、ちつとも片付かないよー!」

自分の部屋を片付けていたはずの駄妹。まゆりは、情けない顔を晒しながら、俺の部屋へ助けを求めに来た。

まゆり「うつわ、あにいの部屋、もうこんな片付いてる!?!?どんな魔法使ったの!?!?ビビデナバビデナチチンプイ!?!」

総司「どんな魔法も使ってねえよ」

そんな便利な魔法があるんなら、是非ともご教授願いたい。怪しげな森に住んでいる魔法の所にも行けばいいのかね。

総司「そもそも俺の段ボール、まゆりの五分の一くらいだったからな。お前みたいに、余計なモノをかき集まってないんだよ」

ここに越してくる前、荷物をまとめている時に、不要なものはあらかじめ処分した。

もう読まない漫画雑誌に単行本、昔の教科書や参考書、二度と遊ばない子供の頃のオモチャは、古本屋やリサイクルショップに売り飛ばした。

よくわからないトータムポールの置物だとか、値段がつきそうになり物は容赦なく捨てた。

思い出るのは自分の心になればいいんだ。いざとなれば、買い戻せばいいんだ。

なお、容赦なくゴミ候補になった、手作り感溢れるトータムポールにはどんな思い出があったのか、まったく思い出せなかった。

まったく思い出せなかったことは、きつとたいしたものじゃなかったんだろう。多分。

まゆり「ねえねえ、あにいー、こんなに片付いてるならあー、あたしの部屋のお掃除手伝ってよー！」

まゆり「かわいいかわいい妹の……お・ね・が・いつ★ばちこんに」

顔の前で両手を合わせ、上目遣いでぎこちないウインクのおまけつき。

かわいいかわいい他力本願な妹にくれてやる返事はただひとつ。

総司「脳天チョップ！」

ぺちん！

まゆり「痛あつ！か弱い乙女に手をあげるとわー！暴力反対！男尊女卑！バンデット！」

思いつきり手加減してやったのにひどい言われ様だ。バンデッ

トって。

俺が本気で手刀を繰り出したら、自然石すら真つ二つだぞ。もちろん嘘だけだ。

総司「乙女な主張は、炊事・洗濯・掃除、全部俺よりできるくらい、女子力を高めてからにしろ。な」

まゆり「うう……痛いところを……！だ、だって、あにいの方が年上じゃんかー！」

総司「1コちよいしか変わらないだろ……今のまゆりは、1年前の俺の女子力に勝てるか？」

まゆり「ムリ！ムリムリです！」

仮にもうら若き乙女のはずのまゆりは、あっさりと敗北を認めた。

総司「得意料理は？」

まゆり「カップラーメンを絶妙な硬さで作れます！アルデンテ！」  
そんな残念発言から駄妹の女子力、推して知るべしである。

まゆり「あーうー、お腹が減って、力が出ないよー。お掃除を続けられないよー。出前でも頼もーよー」

ふと時計を見上げれば、既におやつ時の3時も回っていた。学園もそろそろ下校時間だ。

時間を忘れて掃除してたけど、まゆりに指摘されて、腹が空腹を訴えてくる。

総司「出前は高いだろう？お得意のカップラーメンでも作って食べたらどうだ？」

まゆり「記念すべき引越して最初のご飯が、カップラーメンは嫌だよー！お寿司！ピザ！ラーメン！」

総司「ラーメン混ぜってるじゃねえか。なら、カップラーメンでいいだろう」

まゆり「出前のラーメンとカップラーメンは別カテゴリーだよー！ラーメンならOK？」

総司「駄目だ。無駄遣い禁止。今後、俺達は限られた生活費の中でやりくりして、日々を生きていかなきゃならないんだぞ」

まゆり「なら、せめて、おそば！引越蕎麦！縁起物！」

総司「カップそばなら、緑色のがあったら」

まゆり「だーかーらー！ちーがーうーのー！出前のお蕎麦と、カップそばはちーがーうーのー！わかんないあにいだなあ！」

総司「初日から出前なんて、贅沢すぎだ。スーパーの弁当なら、なんぼか安上がりだろ」

総司「あ、そうだ……二丁目の角にあったスーパー、まだあるかな？あそこの弁当、安かったよな？」

まゆり「スーパーひので屋の300円弁当！懐かしー！あたし、買いに行く行くう！」

総司「駄目だ。まゆりの部屋は、段ボールまみれなんだろう？寝床を確保するまで、外出禁止」

まゆり「ちえー……あに、母ちゃんみたい。せつかく、両親の支配から逃れたというのにー」

総司「何を偉そうに。父さんも母さんも旅行で、もうしばらくここに帰ってこないってだけだからな」

まゆり「父ちゃん、母ちゃん、いい年してラブラブすぎだよねー。はー、しばらくあにいと二人つきりかー……はっ！」

まゆり「ひとつ屋根の下で暮らすかわいいかわいい妹は、女の子に飢えたあにいの毒牙にかかってしまうの!？」

総司「……あんまりバカばかり言っていると、飯抜きだからな？」  
まゆり「からあげ弁当でお願いします！お肉マシマシ、タルタルマシマシ！」

お弁当のオーダーすらも、女子力の低い残念な妹だった。

お供は連れずにひとりきり。

昔の記憶を頼りに、近くにあったスーパーひので屋へと向かう。

俺とまゆり、そして、立石家の4人家族は、ここ、光葉台に住んでいた。

父親が本社から一時的に支社へと転勤。

引越しを余儀なくされ、そしてこの度、無事にお勤めを終え、本社勤務に戻ったため、俺たち兄妹もまた、ここに帰ってきた。

ちなみに、両親は転勤の移動準備にプラスして、貯まりに貯まっていた有休をフル消化。

結婚20周年、10年に一度の結婚記念日旅行(10年ぶり2度目)の真っ最中だ。

どこか詳しくは聞いていないけど、南米をぐるりと回って帰るとか言っていた。

……まあ、南米だろうが、何だろうが、どこに行ってくれてもいいんだけどさ。観光名所の画像と一緒にさ。

母(パパといっぱい楽しんでまーす!もう一人、弟か妹がデキちやったらごめんね★)

そんなファンキーなメール文を送られてきても、年頃の息子としちゃ、どう反応していいか困るんだよ。

そんな万年ラブラブカップルを見続けたせいで、子供の俺たちにまで悪影響が出ちゃったんだよなあ。反省してんのかなあ。

? (なあ総司?引越しそうそう、まゆりに頼まれて弁当の買いに行かせるとはな)

総司「あいつも駄目な女子力だからな、ホントに困るよ!」  
? (はは、そう言うな、お前の妹は案外面白そうだな)

総司「てっ、オレの頭の中であんまり喋るなよゼロ!」

そう、俺の体の中にはウルトラマンゼロというウルトラ戦士が入ってる。簡単に説明すると1年前に光葉台に来る前、父さんが社にいた頃、俺達立石家がいる街に怪獣が襲撃、そのピンチにあのゼロが俺達を救い、力を尽きて光になる。

俺が家に帰る直前に子供が飛び出して守ってトラックの事故にひかれる瞬間、青い光が俺と子供の命を救い、その光は俺の体に入った、そうゼロだった。

ゼロ(良いだろ別に、俺がトラックにひかれそうになった子供とお前の命を守ったんだ、喋らせてくれよ)

総司「それはそうと、何で俺の体に入ったんだ?!」



ゼロ(仕方ないだろ、あの時はお前を守った瞬間に体に入ったんだ、しばらくはダメーシがあつて回復出来るからな)

総司「まあそうだけど、新しい学校では大人しくしろよ」

ゼロ(たく、うるせえな、たまにはお前の体を借りるぞ)

総司「駄目だ……ん?この店、オンボロ焼き鳥屋だったよな……?」

昔、父さんに連れてきて貰った覚えがある。店の名前は、記憶と同じだ。

昭和を色濃く残していた焼き鳥屋が、すっかり綺麗に建て替えられていた。

焼き鳥屋なのに、手作りシウマイが、めちやくちや美味かった覚えがある。

すっかり見違えちゃったけど、あの古ぼけた雰囲気は、それはそれで好きだったんだ。

そろそろ目的地についてもいい頃だ。ひので屋は、この辺だったはず……。

総司「ひので屋……じゃない!」

スーパーひので屋も、引越し先でも見慣れた全国チェーンの大手コンビニに姿を変えていた。

総司「マジカー……」

ゼロ(おい?どうすんだ総司!?)

総司「他にめぼしい店もないし……まゆりには、期間限定のからあげちゃんでも買ってつてやればいいか」

引越して来て最初の飯はコンビニ弁当は仕方ないが、からあげ弁当にからあげちゃんをつけて、添え付けのタルタルをたくさん貰えば、オーダー通り。

総司「ん……?」

コンビニ店内に入ろうとしたガラス越し。

向こう側には買い物を終え、店外に出ようとしている女の子の姿が映る。電車と同じで、出る人優先だ。自動ドアで待機。

コンビニ店員「ありがとうございます」

出てきたのは制服姿の奏撫だった。

ゼロ（なあ？総司、あいつ、綺麗だぞ！）

総司「あー、ゼロは黙ってるよ！」

奏撫「……えっ？」

奏撫は出ようと瞬間、何か気づく

奏撫「ソウ……くん……?!ソウ君だよね?!」

総司「……へ？」

不意をつくのように、彼女の口から出たのは実に懐かしい、数年ぶりの呼び名。

奏撫「ひ、人違いじゃないよね！た、立石総司くんだよね?!」

総司「あ、あ、うん……立石総司だけど……キミは？」

奏撫は大きな瞳がキラキラ輝き見てたのは涙。

ゼロ（おい？総司？あいつ、泣いているのか？お前？泣かせたのか？）

奏撫「私……ううんと、その、随分前だもんね。いきなり言われても、困っちゃうよね……」

奏撫「覚えてないかもしれないけど……そ、その、私、奏撫ですかな、で……？」

総司は奏撫の名前を聞いて面影を思い出す

総司「奏撫……も、もしかして、カナちゃん？」

奏撫「うんっ！そう、カナちゃん！五ヶ谷奏撫！久しぶりだねっ、ソウくんっ！」

数年ぶり、コンビニ前で偶然の再開。

総司が見えたのは幼なじみの少女、奏撫だった。

ゼロ（何だろう？あいつを見たら何だか思い出すのか？）

キオ side

キオ「よっと、これはここに置くんですね？先生」

幼稚園の先生「そうよ、ありがとうキオ君、本当に助かったわ」

キオはウエンディとダニーとピグモンと一緒に亀有幼稚園のボラ

ンティアのアルバイト、キオとウエンデイは学園が終わった後、一先ず家に帰り、私服に着替えダニーとピグモンと一緒に亀有幼稚園に行ってボランティア、ペガは家で留守番、麗子もお手伝いに来た。

麗子「キオ君、ここのお手伝い、お願いしても良いかしら？」

キオ「はい、今行きます」

ウエンデイ「キオ、あんまり無理しないでね」

キオ「大丈夫、無理しないから」

キオは麗子の所に手伝いに行った。

ダニー「キオも頑張ってるな、将来良い姪っ子の旦那さんになるな。」

ウエンデイ「もお、叔父さん！」

数分後、キオ達はボランティア作業を終え、幼稚園のタイルに一息

キオ「麗子さん、今日は一緒に手伝っていただいてありがとうございます  
います」

麗子「良いのよ、私もキオ君達のお手伝いが出来て良かったわ。」

キオ「両さん達の方はどうしたのですか？」

麗子「両ちゃんの方は部長の仕事がめんどくさそうだから圭ちゃんが面倒見てるわ、派出所には寺井さんがいる。」

ウエンデイ「派出所にはヒョンちゃんがいすね」

麗子「そうよ、ん？」

麗子はキオ達と話してる最中に木の上ののってる猫を見る子供の姿が見える。

ウエンデイ「あの子… 木から降りない猫を助けようとしてる？」

キオ「よし、僕が助けるよ」

キオが立ち上がって猫のいる木の方へ飛ぼうとすると

幼稚園男子供「やあっ！」

少年が手から光の刃が飛び、猫のいる木の枝に向かって投げ、枝が落ちて猫を救った。

「いゃ〜」

ウエンデイ「麗子さん？あの子の動き見ました?！」

麗子「ええ？手から光の刃が出てきて猫のいる木の枝が切断したわ

?!」

ウエンデイ「もしかして?リトルスター?!」

ウエンデイがあの子供を見てリトルスターと判明。

小野ユーリ「ほお…： あの子供にもリトルスターがあるとは…：

となればウルトラマンゼロもここに来たはずだね」

小野ユーリはリトルスターを見つけたとたん、ジードライザーを構えて怪獣カプセルを出した。

総司 side

立石家リビング

総司はまゆりと一緒にリビングでご飯を食べて奏撫と再会した話をする

総司「つてことがあつてさ。いやあ、偶然つてあるもんだな」

まゆり「つぶあはあいよいよ!」

総司「うえあ!?!ぼちい!?!口に唐揚げ入れたまま叫ぶな!」

まゆりは総司の奏撫との再会の話に驚き、開いたお口から唐揚げの破片が、シヨットガンのように飛んできた。

まゆり「叫びたくもなーりーまーすうー!」

まゆり「何で!?!何であにいは、お弁当と、からあげちゃんだけ買って、こんな早く、のこのこ帰ってきてるのよさ!?!」

総司「こんな早くつて…： お前が腹減らしてたから、買い物だけ済ませて、早く帰ってきてやったんだろうが…：」

まゆり「運命的に再会した女の子に、『よっ、久しぶりー』だけですませるなんて!バカなの!?!アホなーむぎゆぎぎぎぎ!」

総司「久しぶりだけじゃないぞ。『こっちに帰ってきたから、これからもよろしくなー』つて」

総司はまゆりのほっぺを鷲掴み、尖った口はまるでひよつとこキス顔。ほっぺを離す。

まゆり「そ、そんなの一緒ですー!オマケみたいなもんですー!」  
まゆり「昔、あれだけ仲良くしてたカナちゃんでしょ!?!積もる話し

のひとつやふたつ、あつたんじやないの!？」

総司「いやー、別に……」

まゆり「あるでしょー!ないわけないでしょー!あたしなら、百万個くらいあるよー!」

そりやすげえな。語り尽くすのに何年かける気だ。

総司「運命とか、大袈裟だな」

総司「昔住んでいたところに帰ってきたんだから、向こうも引越してなきや、そりや再会くらいするだろ」

まゆり「何も知られてないのに、だよ? たまたま行つたコンビニで、幼馴染のカナちゃんとかかい合わせでバツタリ!？」

まゆり「こんなの運命じゃん! デステイニーじゃん! 恋の始まりじゃん! ラブゲッチューじゃん!」

総司「少女漫画脳だなあ」

まゆり「少女漫画だけじゃありません! 少年漫画だって読んでます!」

総司「知ってるよ。まゆりの部屋にある段ボールの大半って、漫画だろ」

別にならない胸はって、言うほどでもない。

総司「あんなに漫画を溜め込むなら、電子書籍に切り替えればいいのに。データなら、スペース取らなくていいだろ」

まゆり「えー、電子書籍は読んでる気がしないんだよー。あたしは、ぺらぺらめくる感触と、インクの匂いを楽しみたいの」

総司「そんなに紙とインクが好きなら、将来は印刷所で働けよ」

まゆり「あはは、そういうことじゃないっての。あにい、バカだなー」

総司「からあげちゃんガーリックトマト味没収な」

まゆり「なんで!?! 搾取! 理不尽な押収! あーん!」

まゆりは総司にからあげちゃんが没収される瞬間、口の中にポイポイと放り込み。

まゆり「もぎゅもぎゅもぎゅ」

ゼロ（あいつ?一瞬で食いやがった?!）

まゆり「みああうおまんふのひゃんふはっはほひー…」  
その瞬間、まゆりはリモコンを取ってテレビをつける。  
総司「口の中のモノがなくなってから喋りなさい、後、テレビをつけるな…」

まゆり「いいじゃん、あたしも見たいのがあるのに、おっ？何だ!」  
ニュースが流れ、まゆりが気づいてたのは黒いウルトラマンゼロが街を暴れる姿だった。

アナウンサー「臨時ニュースです、亀有幼稚園周辺の街に怪獣が現れました、市民の皆様は家から出ないで下さい、危険です!」

ゼロ（あいつは!?ダークロプスゼロ!）

ゼロ（なんで?あいつがここに?ベリアルは生きてるのか!）

キオ side

亀有幼稚園周辺の街

市民「きゃー!」

市民「助けてくれ!」

麗子「皆、危ないから中に入って!」

キオ「ここは危ないよ」

キオは麗子とウエンデイと一緒に市民の避難誘導。

キオ「麗子さん、ウエンデイと一緒に子供達をお願いします」

麗子「ええ、任せて」

ウエンデイ「気をつけてねキオ」

キオはダークロプスゼロが向かってる場所に向かった

キオ「亀有は皆の街だ、ジーツとしててもドーにもならない」

キオ「融合!」

ウルトラマン《シュワ!》

キオ「アイゴー!」

ベリアル《ヘアアア!》

キオ「ヒア・ウイゴー！」

《フュージョンライズ！》

キオ「決めるよ覚悟！はー、はっ！」

キオ「ジイイイド！」

《ウルトラマン！》

《ウルトラマンベリアル！》

《ウルトラマンジード、プリミティブ！》

ジード「シユワ！」

キオはジードに変身

ゼロ（ん？あのウルトラマンは!?）

総司「どうした？ゼロ」

ゼロ（ベリアル？いや？違うのか!?!）

ゼロはテレビでダークロプスゼロと対決してるジードをベリアルに似てると気づく

ジード「行くぞ、はっ！」

キオはダークロプスゼロに向かってタツクル、だがダークロプスゼロの体は重いため弾き返される

ビー

ジード「うわああ！」

ダークロプスゼロは額からビームをジードに向けて発射し、ビルを破壊。

ジード「この、よくも、それ！固い！」

レム（ダークロプスゼロは装甲が固い体質、今のフォームでは打ち破ることは出来ません）

キオ（ええ?）

小野ユーリ「早く来い…：ウルトラマンゼロ、来ないならこっちら行くよ」

《ダークロプスゼロ!》

小野ユーリはダークロプスゼロのカプセルを2つジードライザーにスキャンして召喚した。

キオ（ええ？更に増えた!?!）

レム（ダークロプスゼロはベリアル銀河帝国が開発した兵器です、複数出現します）

ジード「こんなの出るなんて？うわああ!」

ダークロプスゼロ3体はジードに向けてゼロスラッガー攻撃しジードはピンチに訪れ。

ピコンピコンピコンピコン

カラータイマーが赤になり点滅

キオ（まだだ、僕は諦めない、僕は皆の為に戦うんだ、僕は負けられない）

幼稚園男子供「頑張れウルトラマン!」

幼稚園女子供「負けないで!」

キオ（ん？この声は!?!）

キオが微かに聞こえたのは亀有幼稚園の中で子供達がジードになったキオを大きな声で応援する声が聞こえた

幼稚園男子供B「頑張れ、頑張れ、ウルトラマン!」

幼稚園男子供C「皆の地球を守って、麗子さん達の為に頑張れ!」

麗子「子供達が…キオ君を応援してるわウエンデイちゃん」

ウエンデイ「ええ、皆がキオを応援する勇気があるから応援してくれています」

麗子「ん？ウエンデイちゃん!?!」

ウエンデイ「あっ？あの男の子のリトルスターが!?!」

ジードを応援してる男子供からリトルスターが離れ、そのリトルスターはジードのカラータイマーに入った



キオ（ん？リトルスター!?これは!?)

《《デユア!》》

キオがカプセルホルダーからカプセルを見るとウルトラセブンが掛かれたカプセルを手に入れた

レム（セブンカプセルを手に入れました!キオ、新たなフュージョンライズできます)

キオ（よし、一か八か、やってみる)

キオ（融合!)

ウルトラセブン 《《デユア!》》

キオ（アイゴー!)

ウルトラマンレオ 《《デアア!》》

キオ（ヒア・ウイゴー!)

《《フュージョンライズ!》》

キオ（燃やすよ勇氣、はー、はっ!)

キオ（ジイイイド!)

《《ウルトラセブン!》》

《《ウルトラマンレオ!》》

《《ウルトラマンジード、ソリッドバーニング!》》

ジード「はあっ!」

キオがウルトラセブンとウルトラマンレオのカプセルを使ってタイプチェンジした姿、頭がウルトラマンレオとウルトラセブンのアイスラッガーが特徴の姿、装甲を纏った赤いロボットのような体質のパワータイプ、ウルトラマンジード、ソリッドバーニング。

♪ウルトラマンジードソリッドバーニング♪

総司（ゼロ）「ん!?あの姿は親父と師匠の力!?どうしてあいつが!？」

ゼロは総司の体を借りてソリッドバーニングに変わったジードの姿を見て驚く

ジード「デユア、デアア!」

ソリッドバーニングになったキオはダークロプスゼロの胸に向

かつておもいつきり右ストレートで殴ると敵をビルまで吹き飛ばす

幼稚園男子供「わああ、凄い！」

幼稚園女子供「カッコいい！」

麗子「あの子達、キオ君が変わった姿に喜んでるわね」

ウエンデイ「ええ… 何だか強そうですね」

子供達はジードソリッドバーニングの戦いで大喜び。

キオ（凄い？これがフュージョンライズして変わった姿の力!?!）

レム（はい、ウルトラマンジードソリッドバーニングは格闘戦モ  
チーフです、どんな固いものでも碎けます）

キオ（よし、とにかくやるぞ！）

キオはダークロプスゼロに容赦なく連続にパンチし

ジード「はああお、スラッガーアッパー！」

キオは頭のスラッガーを右腕につけてダークロプスゼロに向けて  
アッパー攻撃して撃破。

ダークロプスゼロの2体ははダークロプススラッガーを構え、攻撃  
しようとする

ジード「よし、スラッガーシユート！」

今度は右足の部分にスラッガーをつけ、サッカーのシユートのよう  
にダークロプスゼロに向けてシユート、ダークロプスゼロの2体目が  
切り裂き撃破

キオ（よし、残りは1体、トドメはこれだ！）

ジード「はああお、ストライクブースト！」

キオは右腕のブースト部分から放つ炎でダークロプスゼロに向け  
て放ち、最後のダークロプスゼロを撃破。

幼稚園男子供「わああ、ありがとう、ウルトラマン」

幼稚園女子供「ありがとう」

ジード「シユワ！」

ジードは飛んで去った

小野ユーリ「ほお、あのジードやるようになったね、だがせいぜい頑張ればいいよ、ククク」

こうして亀有幼稚園周辺の街は救われ、皆の命を救った。

奏撫 side

奏撫「ただいま」

？「カナちゃん、お帰り。アイス買ってきてくれた？」

奏撫「う、うん、いつもの濃厚ミルク…… はい、お姉ちゃん」

ゆったりとした口調で話すのは、奏撫の姉、五ヶ谷羽耶音。

羽耶音「ありがと。……ん？どうしたの？ぽけっつとしちゃつて」

奏撫「お姉ちゃんにぽけっつとしてるなんて、言われる日が来るとは思わなかったよ……」

羽耶音「あ、カナちゃん、ひどい。だって、今のカナちゃん、ぽけぽけだもくん」

奏撫「ん……コンビニでね…… ちょっとびつくりしちゃうことがあつて……」

羽耶音「ん、カナちゃんがそんなに驚くつてことは……」

羽耶音「ソウくんにも会ったのかな？」

奏撫「ほえ!?お姉ちゃん、な、なんでわかつたの!？」

羽耶音「んっふふ、びつくりした？何を隠そう、お姉ちゃんは超能力者だったのです！」

奏撫「そういうのはいいから！どうして？どうして？」

羽耶音「え、カナちゃん、ノリ悪い」

羽耶音「んくとね。昨日、ソウくんの家の前を通りかかったら、引越しのトラックが止まってたのね」

羽耶音「だからソウくんたち、また引越してくるのかな？」

奏撫「えーっ!?そんな大事なこと、昨日のうちに教えてよー！」

羽耶音「だって、間違つたら恥ずかしいもん」

羽耶音「でも、表札はずっと立石さんのままだったし。そっか、ホントに帰ってきたんだね、うふふ」

羽耶音「ソウくん、大きくなってた？格好よくなってたかな？」

奏撫「う、うん、昔よりずうっと大きくなってたよ。雰囲気はあんまり変わってなかったかな」

奏撫「……うん、すっごく優しそうだった」

羽耶音「そっかあ、私も会えるの楽しみにしておこうと。アイス、アイス♪……わわっ!？」

奏撫「どうしたの、お姉ちゃん」

羽耶音「ああん、カナちゃん、いくらびっくりしたからって、ゆっくりしすぎ。アイスが溶けて、牛乳になっちゃってる」

なんと羽耶音が驚いたのは奏撫が買ったアイスが溶けて牛乳みたいになった

羽耶音「でも、勿体ないから舐めちゃお……れろん……あ、これはこれで結構美味しいかも♪ちゅっ、ちゅぴっ」

奏撫「もう、お姉ちゃんってば……はしたないよ」

奏撫「そっか……ソウくん、またこっちに戻ってきたんだ……」

今日はソウくんと再開記念日だ」

## 編入初日！

私立光葉台学園

2年A組教室

キオ「ん？あれ？僕の隣の席、誰が来るのかな？」

ウエンディ「ホントだ？誰なのかな？」

咲希「あれ？アスノ君達は知らないの？実は……」

先生「おーい、授業始めるぞ！席につけ！」

先生が教室に入ってきて席につく、先生の隣には総司がいる

先生「それじゃ、立石くん、自己紹介をお願いね」

総司「立石総司です、数年前にこちらに住んでいましたが、親の都合で戻ってきました」

総司「珍しい時期の編入だと思いますが、今日からよろしくお願ひします」

教卓の前で実に当たり障りなく、受け狙いもすることなく、無難かつ簡潔に自己紹介を済ませて、総司は頭を下げる。

パチパチ新しいクラスメイトの拍手を受けるその最中。

奏撫「ソウくん」

奏撫は総司の名前を呼んだその後。

圭助「立石ー！」

圭助も総司の上の名前を呼んだ。

キオ「なんだ、転校生だったんだ、隣の席が空いてたのはこの事だったんだ」

先生「それじゃ、立石くんの席はアスノ君の隣に座ってくれ」

総司「あつ、はい」

総司はキオの隣の席に座った。

『立石くんと仲良くするように』といい、メイン内容のホームルームが終わり、何人かのクラスメイトが総司の席へとやってくる。

男子学生A「立石、だっけ。これからよろしくなー」

総司「こちらこそ。わからないことだらけなんで、いろいろお世話になります」

男子学生B「そんな他人行儀にすんなよー。タメじゃん」

ゼロ（だつてよ総司）

女子学生A「でも、前にこの辺住んでたんでしょ？どこどこ？家つて、どの辺？」

女子学生B「つてか、奏撫と知り合いなんですよ？どういう関係なの？奏撫も詳しく聞かせなさいよー」

奏撫「ど、どういう関係でもないよー。ソウくんの家とは、家族ぐるみのお付き合いで……いわゆる幼馴染みで……」

クラスの女子に背中を押され、奏撫が総司とキオの席の前に姿を現した。

総司「あ……五ヶ谷さん、昨日はどうも」

奏撫「うん、どうもー。こつちに帰ってきてたの知らなかったから、びっくりしちゃったー」

総司「ごめんな、まだ片付けが終わってないから慌ただしくて」

総司「一通り片付いてから、まゆりと一緒に挨拶に行こうと思ったんだけど」

奏撫「ううん、いいのいいの。まゆちゃんも、ウチの学園に？」

総司「ああ、1年C組っていったかな」

奏撫「1年C組……そうなんだ。後で会いに行こうつと」

奏撫「あ、まゆちゃんつていうのは、ソウくんの妹さんなの。いつも元気で、すつごくかわいいんだよ。ね？」

事情を知らないうちにクラスメイトに注釈を入れつつも。

総司「相変わらず、元気だけが取り得だけど……。かわいいっていう部分は、賛同しかねるな。『かわいい』のハードルは思いつきり下げておいてくれ」

男子学生A「立石の妹さんは美少女かー！よーし、後で絶対見に行

く！」

男子学生B「一目惚れしたら『お兄さん』って呼んでもいいですか！」

総司「やめてくれ！ハードルは低めに！低めに！」

ゼロ（そうだな、俺の妹を口説くのは二万年早い）

奏撫を起点にクラスメイトとの溝が、埋まっっていくような気がする総司。

奏撫「えー、昔のままなら、絶対かわいいに決まってるよー。ソウくんだって、昔から変わらなくてー」

咲希「奏撫、彼と知り合いなの？」

咲希が奏撫の隣に来る。

奏撫「あ、サキちゃん。紹介するね。ソウ……立石総司くん。私のご近所さんで、幼馴染みなんだ」

総司「よ、よろしく、立石総司です」

咲希「双葉咲希です。よろしく。一応、奏撫の友人をしているわ」

奏撫「『一応』って何ー？サキちゃんは私の友達だよね!？」

キオ「あはは、そうだ、自己紹介するよ、僕はキオ、キオ。アスノ。こっちは僕の幼馴染みの」

ウエンディ「私はウエンディ。ハーツ。去年キオと一緒にオリバーノーツから来ました、よろしく。」

咲希とキオとウエンディも総司に自己紹介する。

男子学生A「アスノは地球を守った救世主だけ、3年前のあの地球連邦とヴェイガンの戦争を終わらせたアスノ家のフリット。アスノの孫でアセム。アスノの息子でガンダムに乗ってるよ。」

総司「マジで!? そうなのか!？」

キオ「まあ……そうだけど、平和になった今は夢のためにここに来て日本で勉強やウエンディの叔父さんのボランティアのアルバイトの手伝いに行ってるよ。」

そう、キオはフリット。アスノの孫でアセム。アスノの息子、3年前にあった地球連邦とヴェイガンの戦いがあり、地球周辺の宇宙での最後の戦争でフリットの乗るガンダムAGE-1フラットがヴェイガ

ンの要塞ラグラムスと合体したセカンドムーンに向かってプラズマダイバーミサイルを放とうとするがキオの乗るガンダムAGFXとアセムの乗るガンダムAGEX2ダークハウンドがプラズマダイバーミサイルを止めようと説得、キオのXラウンダーがフリットに『違う……絶対に違う！その人達だって、こんなこと望んでいない！』と声をかけ、フリットは崩壊するセカンドムーンの人々を救出するために地球連邦とヴェイガンのモビルスーツ達でラグラムスの球体ブロックを破壊して救出、その途中にエグザディービーを守護するモビルアーマーシドと融合したヴェイガンギアが襲撃、キオがヴェイガンギアシドを止めるために戦い、FXバーストを使ってヴェイガンのモビルスーツ達と地球連邦のモビルスーツ達がキオを援護、最後に体当りでヴェイガンギアシドを撃破し、パイロットのセラ・ギンスを救い、命を守り、地球圏と火星圏の和平になった。

ウエンデイ「その時、私もキオのお手伝いしてたの、オリバーノーツがヴェイガンに襲撃の最中に迷子の3人と一緒にディーヴァという戦艦に乗って皆さんのためにキオの叔母さんと一緒に医療のお手伝いしてたの。」

奏撫「ウエンデイちゃんとアスノ君は将来を目指してるんだね？」

キオ「ウエンデイの夢は人の命を守るため医療を頑張り、僕は人がわかり合う為の未来を目指してるんだ」

キオは自分とウエンデイの夢を総司に話し、話題になり。

咲希「奏撫と家族ぐるみでのお付き合いということは……羽耶音先輩ともお知り合いなのかしら？」

総司「ハヤ姉？ええ、まあ……五ヶ谷さん、ハヤ姉もこの学園にいるんだ？」

奏撫「うん、お姉ちゃんは3年B組」

男子学生A『ハヤ姉』だと……！五ヶ谷先輩とそんな親しい仲なのか!？」

周りの男達は確かなざわめきな声が聞こえ。

総司「そーいや、ハヤ姉にはまだ会ってないけど……元気にしてる？」



奏撫「うん、相変わらず。のほほーんってしてる」

総司「はは、ハヤ姉らしいね」

男子学生B「またハヤ姉だと……！」

…… おかしい。打ち解けムードだったはずなのに、俺に向けられる男達の視線に敵意が満ちてきた気がする。

ゼロ（おい？何だかアイツら、敵意を感じるぞ、何だか体が痛むぞ）  
何だか、こう、熱くて痛い、同時にゼロも痛む。

圭助「学園のアイドルを『ハヤ姉』なんて気軽に呼べる男は、お前くらいだよな、立石……いやさ、総司！」

そんな男達の視線の最中、割り込んできたのは圭助だった

総司「あの、失礼ですが……どちらさまで？」

圭助「おいおいおい、昔馴染みを忘れてもらっちゃ困るよー！」

総司「昔馴染み？」

圭助「あれ？覚えてない？」

総司「まったく、会ったことありましたっけ？」

圭助「そつかり、オレもあの頃と比べたら、大人になっちゃまったから、気づかないのも無理ないよなー」

圭助「何を隠そう、平山圭助だよ。どうだ！名前を聞いたら、思い出したろ！」

圭助は総司に自分の名前を思い出すように自己紹介した

総司「いや、まったく」

圭助「……マジで？引越す時、総司と同じクラスだったんだけど、覚えてない？」

総司「えっ？そうだった？悪い、本当にさっぱり」

圭助「お別れ会、やったろ？皆でお前の事、送り出したろ？」  
それはなんとなく記憶にある。

圭助「トーテムポールをプレゼントした奴、覚えてない？」

ゼロ（おい、あのトーテムポールを思い出したか？）

総司「ん？あああああ！あのトーテムポール、おまえだったのかー！」  
そう、総司は思い出した、高さ7、80cmほどあったごく一般家庭に置くオブジェとしては、雰囲気ミスマッチどころか、全然あつ

てない、これを手渡された時は圭助が『これ、俺だと思ってくれて良い』と泣き渡し、よく見ると圭助の顔が3つもあった、それを見た総司はヒイタ程に驚いたのだった

圭助「おっ、思い出した？大事にしてくれてる？」

ゼロ（ん？確かあのトーテムポール……ここに引越してくるときに真っ先に捨てたな）

そうだった、ここに越してくる時、真っ先に捨てちまったんだ。今頃、真っ白な灰になっているか、ゴミの山に埋められてるか。

総司「お、おー、ももも、もちろんだとも」

圭助「そうか、それは良かった。実はあのトーテムポール、財宝の隠し場所が書いてある地図が入ってるぜ」

総司「マジで!?…… あ、いや、嘘だよな!？」

圭助「もちろん嘘だ。そんなのが入ってたなら、誰が人にやるもんかよ、はっはっは!」

だよなー。そんなのが入ってたなら、地図だけ抜き取って探すよな。

圭助「まつ、そういうわけでさ！また、出会えたよしみだ！仲良くやろうぜ！なっ、総司！俺の事は昔みたいに呼び捨てでいいからさ！」

総司「お、おう…… よろしく…… 圭助」

総司と圭助は握手で握り返し、圭助はニカッと良い笑顔。

ゼロ（おっ？圭助を見たらあいつに似てるな、俺の仲間、グレンに）

光葉台星雲荘基地の中

両津「よし、そこだ行け、ウルトラマン!」

ペガ「負けないよ、頑張れウルトラマンエース!」

光葉台星雲荘の中では両津とペガはウルトラマンの格闘ゲームをしていた、ヒヨン吉は戦いを見る、両津はウルトラマン、ペガはウルトラマンエースを使ってる。

ペガ「それ、バーチカルギロチン！パンチ!」

両津「おわっ？やるな、こっちは八つ裂き光輪!」

2人とも負けずに互角になり

ペガ「よし、トドメはメタリウム光線だ！」

両津「ならばスペシウム光線！」

2人はボタンを押して必殺光線を放ち光線の力比べ

ペガ「えっ？うわああ！」

両津「勝った、わしの勝ちだー！」

ピピピピピピ

両津「ん？わしのスマホに連絡？麗子からか」

ピッ

両津「もしもし麗子、わしだ、どうした!？」

麗子「両ちゃん！何処に行ってたの？仕事を放ったらかして！」

両津「すまんすまん、光葉台星雲荘基地でペガとゲームしてたんだ、

そっちはどうした？」

麗子「光葉台学園周辺の街をパトロールしてたら学園の校門に怪しい二人がウロウロしてるわ」

麗子はパトロールの最中に学園の校門に怪しい二人がウロウロしてるのを見つけた。

両津「何？怪しい二人だど？わかった、わしとヒョン吉もそっちに向かう、中川に連絡して応援頼む、じゃ！」

ピッ

ペガ「事件!？」

両津「ああ、麗子から連絡よるとキオ達がいる学園の校門に怪しい二人がウロウロしてるからな」

ペガ「僕も行くよ、キオが心配だよ」

両津「よし、わしの影に入れ！ヒョン吉行くぞ！」

ヒョン吉「ゲコ！」

両津「レム、おまえは校門の怪しい二人を調べてくれ、調べたら連絡頼む！」

レム「わかりました、気をつけてください両津様」

両津「よし行くぞ！」

ペガは両津の影に入り、両津はヒョン吉に乗って基地のエレベーターで現場に向かった。

キオ、総司 side

午前中のカリキュラムを3時限ほど終えたところで。

奏撫「どう、ソウくん。勉強ついていけそう?」

総司「まあ……何とか、つてところかな。微妙にやってることは違うけど、ちゃんと理解はできてるよ」

奏撫「それなら良かった。わからないところがあつたら。遠慮なく聞いてね」

奏撫「あー、でも、サキちゃんとキオ君に聞く方が安心かも」

総司「アスノとサキ……双葉さんって、頭良いんだ」

話題に上った双葉さんの方を見ると、視線を向けられていることに気づき、俺とアスノの方へ振り返る。

咲希「なあに? 私の悪口でも言つてたのかしら?」

キオ「いや、言つてないよ双葉さん」

奏撫「悪口なんて言つてないよー。褒めてたんだよ。サキちゃんはすつごく頭いいって」

咲希「そんな……大した事はしてないし、私より上の人はアスノ君やいくらでもいるわよ」

咲希「あんまり期待されても、お応えできるか分からないから、ほどほどにね」

双葉さんは困ったように髪を指先でクルクルと回る。

奏撫「またまたあ。テストの時はお世話になります」

咲希「私なんかのお世話にならなくても、奏撫には羽耶音先輩がいるでしょう」

奏撫「うーん……お姉ちゃんねー……」

総司「何か渋々って感じだね。ハヤ姉って、結構頭いいんじゃない?」

奏撫「うん、お姉ちゃん、頭いいよ。学年でも結構上の方」

総司「それなら、尚更ハヤ姉に教えてもらえばいいんじゃない？」  
奏撫「頭はいいし、成績はいいんだけど……教えるのはあんまり上手じゃないんだ、お姉ちゃん」

奏撫「感覚で答えを出してるから、理解できないことが多くつて……。それが合ってるから、困っちゃうんだよね」

咲希「……そうね、羽耶音先輩、そういうところあるわ。上手いんだけど、指導者には向いてない感じ」

キオ「そうだね、たまには僕達で羽耶音先輩を助けよう」

4人に共通したハヤ姉の話題が出たところでチャイムが鳴り響き、強制終了させられてしまい。

午前の授業を終えて、昼休み。

圭助とアスノの案内で、購買でいくつか惣菜パンを買った俺は、2人とともに、校舎と校舎の合間の中庭でランチタイムすることにした。

野外の解放感を味わいながら昼食を取りたい学生の定番スポットらしい。

レジャーシートを敷いて、行楽感覚でランチを楽しんでいる女の子集団もいる。どちらかといえば、男より女の子が多い気がする。

総司「もしかして、女の子目当てで、ここで飯食ってるのか？」

圭助「ああ、そうよ。どうせなら可愛い女の子を眺めながら、飯食いたいじゃない？」

圭助「野外の解放感は、女の子のガードを緩くする……。！ほら、あそここのレジャーシートで飯食ってる女の子達な」

圭助「パンチラチャンスがあつたりしてな。何度か純白の三角地帯を拝ませてもらったりもしてるんだぜ、へっへっへ」

総司「もちろん俺も男だから嫌いじゃないけど……。お前のはなんかゲスいぞ……」

圭助「うるへー！手段を選んでられる程、女子に満たされちゃいねーんだよー！」

圭助「つーかさー、転校初日にして、女の子と絡みまくりじゃねー

かよー。フラグ立ちまくりかよー。憎いわー。憎しみで人を殺せたらって思うわー」

総司「誰が女の子と絡んでるって？だったら、今こうやって、お前と飯を食ってる俺は何者だよ」

圭助「五ヶ谷さんと双葉さんとあれだけキオと話して、五ヶ谷先輩をハヤ姉と呼べるお前は、この学園の勝ち組上位層だぜ」

総司「勝ち組、ねえ……ん……？なんだよ」

圭助「スマホとにらめっこしてどうした？あ、lane、総司もやってんだ」

総司「イマドキの若者らしく、一応はな」

ひよいと圭助が総司の手元を覗き込み、スマートフォンアプリ、lane、laneとは、いつでもどこでも友達とコミュニケーションを取れるという触れ込みのスマートフォンアプリ、グループでの会話や動画の共有とかも出来る。

総司「つつても、フレンドほとんどいないよ。前の学園の友人が何人と妹ぐらいだ」

圭助「妹？お前、妹なんていたの？」

総司「いるつつーか、妹もこの学園に来てるよ。昼飯に誘ったんだけど『クラスの友達と食べるからいい』ってさ」

俺が仏心で誘ってやったら、これである。あいつの分も合わせて、購買で多めに買っておいたというのに、さすがの俺でもこんなには食べきれない。

圭助「マジかよー！幼馴染みがいる、さらにそのお姉さんがいて、実の妹がいるなんて、お前どんだけ羨ましい環境なの！」

圭助「1人くらい俺によこしてくれても、バチ当たらないんじやねーの？」

総司「1人よこすどころか、別に誰も俺の所有物じゃねえっての……」

キオは持ってきた弁当を食べ、総司は開封したハムカツをかぶりつきながら、まゆりに『わかった』と返信。

圭助「ま、再会のお近づきの印にさ。俺も総司のフレンドにしてくれよ。アカウント教えてちょ」

総司「ああ、俺のなんかでよければ」

キオ「総司君、僕にもフレンド良いかな?」

総司「ああ、いいよ、アスノにもアカウント教えてくれ」

キオ「いいよ、送ったよ。」

圭助「俺も送ったぜ、サンキュー。耳寄り情報があったら回してくからさ」

圭助とキオにアカウントを伝えて1分後、総司のフレンドに新たな名前が二つ増えた。

総司「……パン食う? 買いすぎたから食いきれないんだ。好きなの持つてけよ」

圭助「おつマジ!? サンキュー! ーじゃ、目玉焼きパンもらー」

総司「あ、それはダメ。俺が次に食おうと思った奴」

圭助「好きなの持つてけつて言ったじゃんかよ! わあったよー、んじゃ、黒糖揚げパンもらうな」

総司「それなら良いぞ、ん? 誰だ、あの子は?」  
? 「……………」

総司が見えたのは中庭の木を眺めてる私服姿の少女

キオ「ん? 総司君? どうしたんだ止まって?」

総司「ああ、中庭の木を眺めてる私服姿の少女、一体誰だろう?」

圭助「ホントだ、制服着てないけど、学生なのか?」

キオ「そうだね」  
ドクン

キオはXラウンダーが發揮して何か現れるように感じる。

キオ(何だろう? この感じ? 誰か来るように見える!?)  
すると。

女子学生A「えっ? キャアア!」

女子学生B「何? あの人達!」

女子学生2人が驚いたのは中庭に突然現れた分身宇宙人ガッツ星

人が2人。

ガッツ星人A「さーて、頼みであの少女を捕獲しろと命令されたからな」

ガッツ星人B「ああ、捕獲したら報酬がたんまりもらえるぞ」

少女「!?ガッツ星人!」

ガッツ星人A「見つけたぞ、あの女だ!」

ガッツ星人B「へへへ、行くぜ兄貴、金儲けだ」

圭助「わわわ!なんだよあいつらは!」

ゼロ（あいつらはガッツ星人!）

総司「知ってるのかゼロ!」

ゼロ（ああ、ガッツ星人はかつて親父を苦しめた星人、あいつら、あの女を狙うつもりか!）

ガッツ星人A「もう逃げられないぞ、大人しく捕まってもらおうか」

ガッツ星人B「へへへ、兄貴、俺に任せてくれ、くらえ!」

ガッツ星人Bは少女に向けて銃を撃つと

少女「……はっ!」

少女の右腕の部分から光の剣が現れさっき放った銃弾を真っ二つに切る

キオ「えっ!?あの人?右腕から剣が出てきた!」

少女「……!」

少女は人間の姿を変えて星人になる、ピット星人だった

ガッツ星人A「おのれ、こうなったら弟よ2人で行くぞ!」

ガッツ星人B「おう、兄貴」

ガッツ星人Aは直ぐ様ピット星人に向けて銃を放とうとすると。

圭助「ん?、アチチチ!何だか燃えるように助けたいぜ、うおおおお!」

ガッツ星人A「ん?なんだ!?!うわっ!」

圭助は燃えるようにガッツ星人Aに向かってタツクルし吹き飛ば



した。

ガッツ星人B 「兄貴!?!よくも!」

ゼロ (総司!体借りるぞ!)

総司 「えっ?ゼロ!?!」

総司 (ゼロ) 「圭助はやらせねえ!おりや!」

ガッツ星人B 「なっ?仲間がいたのか?うわああ!」

ゼロは総司の体を借りてガッツ星人Bに向かってキックした

圭助 「総司…… お前!?!」

総司 (ゼロ) 「圭助!お前はピット星人と一緒にどっか隠れてろ、こいつらは俺に任せろ」

圭助 「あ…… ああ、任せてくれ」

キオ 「僕も一緒に逃げるよ」

キオは圭助とピット星人と一緒に何処かに隠れる

ガッツ星人B 「てめえ、1人で俺達に敵うと思うな」

総司 (ゼロ) 「へへ、てめえらの相手など俺1人で十分だ」

ガッツ星人A 「ぬかせ!」

総司 (ゼロ) 「行くぜ!」

ゼロはガッツ星人二人を相手に挑み

ガッツ星人B 「くらえ!パンチ!」

総司 (ゼロ) 「当たるかよ、おりや!」

ガッツ星人B 「ぐわあ!」

ガッツ星人A 「うわあ!」

ガッツ星人2人の攻撃を避けながらパンチ攻撃するゼロ、そしてキック

ガッツ星人A 「こうなったら分身でお前を惑わせてやる」

ガッツ星人の2人は構えて分身しようとする

? 「お前から逮捕じゃ!」

? 「ゲコツ!」

ガッツ星人A 「なんだ!?!うわっ!」

両津とヒョン吉、麗子が駆けつけ両津はガッツ星人に向かってタツ

クル、ガッツ星人Aは気を失った

麗子「君？大丈夫!？」

総司（ゼロ）「ん？ああ、大丈夫だ!」

ガッツ星人B「このやろう、よくも兄貴を!」

ペガ「危ない!」

ガッツ星人B「なんだ!、てめえ、放しやがれ!」

ペガは両津の影から出てきてガッツ星人Bを抑え

ヒヨン吉「ゲコッ!」

ガッツ星人B「ぎやああ!」

ペガはガッツ星人Bから離して両津の影に入り、ヒヨン吉がガッツ星人Bに体当たり、ガッツ星人Bは倒れる

両津「ナイスだヒヨン吉、ペガ!」

麗子「よし確保よ」

両津「よっしゃ!」

総司（ゼロ）「よし」

ゼロは圭助とキオのいる場所に行く

総司（ゼロ）「おい、大丈夫か?」

圭助「ああ、総司スゲーなさっきの動き、覗いたらスゴかったぞ」

ピット星人「ありがとうございます」

総司（ゼロ）「良いつてことよ……ん?」

ゼロは圭助とピット星人の体に光ったりトルスターに気付き

ガッツ星人A「こうなったら、アイツを呼んでやる!」

カチッ

ドーン

?「キイイイ!」

ガッツ星人Aがスイッチを押すと光葉台学園周辺の街の地上から怪獣が現れる、現れたのは宇宙怪獣エレキング

ピット星人「あれは!?!私とお父さんが育てたエレキング!」

キオ「知ってるの?その怪獣!」

ピット星人「うん、私が小さい頃にこの地球でお父さんと一緒に赤ちゃんだったあの子を育てたの」

エレキング「キイイイイ！」

エレキングは現れた同時に街を襲撃する

キオ「…… 圭助、総司君、ピット星人をお願い」

圭助「おいキオ！何処に行くんだ!?!」

キオ「街の避難してくる、他の皆が危ないから、ウエンディに頼んで学園の皆をお願い！」

キオは圭助と総司に学園の皆を避難するように伝えて学園を出る

両津「大人しくしろ！」

中川「両津部長！」

両津「中川、ちょうどよかった、麗子と一緒にコイツらをパトカーに乗せて署まで頼む、わしはヒョン吉とキオのところに向かう！」

中川「わかりました、気をつけてください！」

光葉台学園近くの街

エレキング「キイイイイ」

キオ「学園の皆を被害をくわえるわけにはいかない、ジーツとしてもドーにもならない！」

キオ（融合！）

ウルトラマン《シュワ！》

キオ（アイゴー！）

ウルトラマンベリアル《ヘアアア！》

キオ（ヒア、ウイゴー！）

《フュージョンライズ！》

キオ（決めるよ覚悟！はあ、はっ！）

キオ（ジイイイド！）

《ウルトラマン！》

《ウルトラマンベリアル！》

《ウルトラマンジード、プリミティブ！》

ジード「シユワ！」

キオはジードに変身

総司(ゼロ)「ん？アイツは!? テレビに出たウルトラマンジードという奴? まさかあいつが!？」

ジード「行くぞ、シユワ！」

キオは変身してすぐエレキングと対決し始める

ジード「シユワ！ヘア！」

エレキング「キイイイイ！」

キオはパンチやキック攻撃しエレキングはその攻撃を尻尾で防ぎ

エレキング「キイイイイ！」

ジード「レッツキングリツパー！」

キオはエレキングの口から放つビームを両腕で水平に広げてカッター光線でエレキングのビーム攻撃を防ぎ

両津「ヒョン吉、わしらはキオを援護する、エレキングの所へジャンプ頼む！」

ヒョン吉「ゲコッ！」

ペガ「両さん、僕も！」

両津「よし、これを持って援護だ！行くぞ！」

ヒョン吉はジードのいるところにジャンプして2人は銃をエレキングに向けて発泡

エレキング「キイイイイ！」

キオ(はっ!? ペガ! 両さん! ヒョン吉! 危ない!)

ジード「デアア！」

エレキングが両津とペガがいるビルに向けて尻尾をふり、キオは2人を守って巻かれ

ジード「なんだ!? うわあああ！」

エレキングの尻尾から電撃を放ち、キオは全身痺れ

ペガ「ああ、キオ！」

両津「エレキングの尻尾は電気が大量に流れるからな浴びた奴は痺れる」

圭助「総司！」

圭助がピット星人と一緒に総司の所に来た

総司（ゼロ）「おい！圭助、なんで来た!?!」

圭助「この子が育てたエレキングが心配だから一緒に来た」

ピット星人「お願い！エレキング！やめて！」

ピタツ

エレキングがピット星人の声でピタツと動きが止まる

キオ（動きが止まった!?!まさかあのピット星人の声が聞こえたのか!?!）

エレキング「………キイイイ！」

ジード「えっ!?!うわあああ！」

エレキングがまた動きだしジードに容赦なく電気攻撃

ピコンピコンピコン

キオのカラータイマーが赤く点滅、タイムリミットが過ぎかけてきた

キオ（このく、離せ！）

ジード「シユワ！」

キオはエレキングの尻尾からカ一杯離れ、爆転し、体勢を整えた

キオ（あの電撃を何とかしないと）

圭助「頑張れジード！お前はヒーローだ！諦めるな！」

すると

圭助「ん？なんだ!?!俺の体から光が!?!」

総司（ゼロ！あれって!?!）

総司（ゼロ）「ああ、圭助の応援でリトルスターが共鳴してるぞ！」

圭助の体からリトルスターが離れジードのカラータイマーに入ると

《デアアア!》

キオ（これは!?!）

レム（アストラカプセルです、さつき平山圭助の応援でリトルスターが共鳴したものです）

そうさつき圭助の応援で圭助の体に宿ったりトルスターがアストラだった

キオ（ん!?!）

キオがカプセルホルダーから光ったレオのカプセルと何だか共鳴していた

キオ（フュージョンライズしてって事なのか?よしやってみる）

キオ（融合!）

ウルトラマンレオ《デアアア!》

キオ（アイゴー!）

アストラ《イヤアア!》

キオ（ヒア・ウイゴー!）

《フュージョンライズ!》

キオ（たぎるよ鬪魂!はあー、はっ!）

キオ（ジイイイド!）

《ウルトラマンレオ!》

《アストラ!》

《ウルトラマンジード!》

《リーオーバーフィスト!》

ジード「シユワ!」

キオがレオとアストラのカプセルを使ってフュージョンライズした姿、拳法をモチーフした姿、ウルトラマンジードリーオーバーフィストだ。

エレキング「キイイイ!」

ジード「デアアア!」

リーオーバーフィストになったキオはエレキングと対決を再会し  
始め

ジード「ハアアア!デアア!」

エレキング「キイイイ！」

エレキングの腹に向けて正拳突きや蹴り攻撃

エレキング「キイイイ！」

ジード「ハアアア！ハッ！」

エレキングの攻撃を身軽のように避け続けるキオ

ジード「ハアアア！ブラザーズインパクト！」

キオはエレキングの所に向かって両腕のカウンター技でエレキングを吹き飛ばした

両津「よし！良いぞ！キオの新しいフュージョンライズは拳法でやるとはな」

ペガ「スゴいよ！キオ！」

ヒヨン吉「ゲコッ！」

ピット星人「エレキング」

ピット星人はエレキングの顔を見て悲しいような顔になり

総司（ゼロ）「おい！エレキングはもう悲しむかもしれねえけど」

ピット星人「わかってる、エレキングを楽にさせてあげな  
きや……」

♪G E E Dの証く悲しみvirgin♪

ピット星人は思い出す、かつて父と一緒に故郷の惑星で育てたエレキングの事を誰よりも愛したことを

ピット星人「お願い！エレキングを楽にしてあげて！」

圭助「俺からも頼む！ジード！」

圭助とピット星人はジードに向けて叫ぶ。エレキングを楽にさせてほしいと

キオ（圭助、ピット星人、わかった、僕が楽にしてあげる！）

ジード「デアア！イヤアア！」

ジードはエレキングにめがけて連続パンチやキックをし、エレキングがふらふらになった瞬間

ジード「バーニングオーバークック！」

最後に右足に炎のエネルギーを溜め、エレキングに向かって高く飛び蹴りの技をして撃破した。

ピット星人「さようなら！エレキング」

圭助「ピット星人……」

ピット星人がエレキングに別れを告げ、体からリトルスターが離れジードのカラータイマーに入った

《「エアア！」》

キオが手に入れたもう一つのカプセルは青いウルトラマン、ウルトラマンヒカリだった

キオ（ピット星人が腕から光の剣が出たのはこれだったのか）

ユーリ「……………」

ユーリは右手をかざして青い光を吸収してカプセルを誕生した。そうさつきキオが倒したエレキングの怪獣カプセル

ユーリ「へー、あのジードも新しいフュージョンライズでエレキングを倒すとはやるもんだね」

こうしてまた一つ、僕は光葉台学園周辺の街を守った、あの事件の後、麗子さん達が連行したガッツ星人の2人は中川さんの宇宙刑務所で収容。圭助と僕と総司君が助けたピット星人の少女はピット星人の両親と一緒に中川さんが製造したシャトルで故郷の惑星に帰った。

光葉台学園に被害はなく、僕らは戻って授業を再開、午後の授業を



終わって僕とウエンディは総司君を連れて学園を案内。その後、総司君はテニスの音が聞こえて見ていくと、たどり着いたのはテニス部だった。

咲希「ふっ！」

手前のテニスコートで激しいラリーをしてるのは双葉さんと

羽耶音「えーいっ！」

総司君のもう1人の幼馴染みで奏撫さんのお姉さんの羽耶音さんだった。

まゆり「おりよ？あにいが、こんなところにいた！」

まゆり「テニスに興味あんのー？あ、そっか、昔、ちよつとやってたもんね！」

総司の背後からかかった声は、総司の妹、まゆり。

総司「まゆり、お前、なんでここに？」

まゆり「やー、ごめんごめん。友達に学園案内してもらっててねー。いろんなところを案内してもらってたら、時間かかっちゃってー」

総司「その後ろの子が友達か？」

まゆり「うん、友達！引越す前、一緒のクラスだったんだよ！ねー」  
♪

まゆりのとりにいるのは友達、総司はどこかで見覚えがあるように気がする。

？「は、はい、あの、お久しぶりです、お兄さん。その覚えてないかもしれないですけど……唯犁です」

総司「唯犁……？ユイちゃんか！」

唯犁「は、はいっ！そうですっ！まゆちゃんが転校してきて、すっごくびっくりしました。お兄さんもお久しぶりですっ！」

唯犁は総司に自分の下の名前を伝え

咲希「唯犁……？」

圭助「ひどい！同じクラスで、見送ってあげたオレのことはちつとも覚えてなかったくせに！」

何故か圭助が俺とアスノ達がいるテニスコートに来て自分の事は覚えてないシヨックをうける。

総司（確か、ユイちゃんの上の名前は支倉ー）

唯犁「双葉唯犁です。あの、改めて、よろしくお願いします！」

総司「双葉……？」

ゼロ（ん？良く見たらあの唯犁、咲希と奏撫、エメラナに似てる、懐かしいな）

ゼロは何やら懐かしく思い出す、そう、ベリアル銀河帝国から救った王女、エメラナだった。

唯犁「お姉ちゃん、友達と先に帰ってるね。部活、頑張ってるね」

咲希「気をつけて帰りなさいね」

総司「お姉ちゃん？」

キオ「僕が説明するよ、唯犁ちゃんは双葉さんの妹だよ」

唯犁「まゆちちゃんから編入したクラスを聞きましたけど、お兄さんと同じクラスなんですよね。偶然ってすごいなー」

すっかり者でリーダーシップの姉と、びくびくおどおど小動物系の妹。

性格や容姿は、あんまり似てない気がする。父親似と母親似なのかもしれない。

圭助「あ、総司の家、そっちなのか。じゃ、ここでお別れだな！ダブル妹ちゃんも！キオとウエンデイちゃんも！良い週末を！」

校門からちよつと行ったところで、家の方向が真反対の圭助と別れ、家までの帰路は、キオとウエンデイ、総司とまゆり、唯犁の5人だった。

総司「そーいや、いきなり馴れ馴れしくユイちゃんなんて呼んじゃったけど、大丈夫だった？」

総司「双葉さんって呼ぶと、うちのクラスのお姉ちゃんの方と混ぜちゃうからさ。他に呼んで欲しい名前があったら、そっちにするけど」

まゆり「えー、あにいつてば、そんなこと気にしてたのー？全然平

気だよねえ、ユイちゃん」

唯犁「え、は、はいっ！是非！ユ、ユイで！ユイでいいですっ！」  
本人の許可を得て、昔の通り、唯犁をユイちゃんと呼ぶようになる。

まゆり「ユイちゃん、久々の再会の記念に、あたしと遊ぼうよー！  
近いうちに暇ないー？」

唯犁「うーん…… 明日は家の用事があるから、ちよつと無理だけ  
ど…… 明後日なら、朝から大丈夫だよ」

まゆり「んーじゃ、明後日遊ぼう！どうしょ、どこか行く？それとも  
うちに来る？ユイちゃんちに行こつか？」

唯犁「あ、え、えーつと…… そのー…… せつかくなら、まゆちや  
んのお家にお邪魔しても良いかな……？」

唯犁は何やら総司の方をチラチラ見る、

総司「あ、俺がいると2人の邪魔になっちゃうかな？なんなら俺、外  
に出てるけどー」

唯犁「じゃじゃじゃ邪魔なんかじゃないですっ！全然っ、そのっ、む  
しろ、私がお兄さんに、ご迷惑をおかけしないといいんですけ  
どっ……！」

総司「迷惑なんかじゃないよ。まだ家の中、おもちゃ箱ひっくり返  
してみたに、とっ散らかってるけど……」

そう、総司の部屋はともかく、妹のまゆりの部屋は大惨事。

総司「まゆり、明後日までにしっかり片付けるんだぞ？」

まゆり「わかってるよ…… あにい、手伝ってくれる？」

総司「甘えんじやありません」

総司は拳をまゆりの頭に落として、ぐりぐりと捻りを加える。

まゆり「いたいいたいいたいー！ギブギブ！」

ウエンデイ「ホントに兄妹中だね、2人は」

唯犁「ふふっ、相変わらず、兄妹仲がいいんですね。羨ましいなー」

まゆり「よくないよー。あにいはずぐに暴力に訴えるんだよー！女  
の子に手をあげるなんて、サイテーマンなんだからー！」

総司「手を上げられるようなことをしてるお前が悪い。あと、まゆ

り以外の女の子にはこんなことしないからな。まゆりは特別なんだぞ」

まゆり「あたしだけの特別……なんかいい響きーじゃないっ！危ないよ、またあいに騙されるとこだった！」

唯犁「お兄さんの特別……まゆちゃん、いいなあ……」

まゆり「んー？ユイちゃん、なんか言った？」

唯犁「な、なんにもっ、なんにもゆってないよっ！」

ゼロ（ハハハ、まゆりは話は面白いな！総司、そろそろキオという奴と話がしたいが）

総司「そうだ、アスノ、ちよつと2人だけで話がしたいが……良いか？」

キオ「いいよ、ウエンデイ、まゆりちゃんと唯犁ちゃんをお願いしていい？」

ウエンデイ「ええ、じゃあ私達はここで2人とお話しするね」

総司「まゆり、覗くなよ」

まゆり「えー、いいじゃん、あにいのケチ！」

唯犁「まゆちゃん、お兄さんとキオ先輩の話を覗いたら怒られるよ」

総司「すぐ終わるから心配するな」

総司はキオを連れてまゆり達のいないところに行く。

キオ「総司君、僕に話とはどうしたの？」

総司「ああ、今からゼロに変わるよ、ゼロ」

ゼロ（おう）

ゼロは総司の体を借りる。

キオ「総司君!？」

総司（ゼロ）「お前がウルトラマンジードか？」

キオ「えっ!? どうして僕がウルトラマンジードだと知ってる!？」  
総司(ゼロ)「さっきの戦いを見てだぞ、俺はゼロ、ウルトラマンゼロ。用があつて去年からこの地球に来た」

キオ「僕以外のウルトラマンがいたなんて……」

総司(ゼロ)「まあ、俺は総司の体を借りて、クライシスインパクトやベリアル真相を今も探してる」

キオ「クライシスインパクト!？」

総司(ゼロ)「ああ、総司やキオ達が生まれるもつと前からあつた災害、俺達ウルトラ戦士は地球と宇宙を支配を企むベリアルの野望を阻止すべく戦いをしてたんだ、だが俺はベリアルと対決して相討ちだが…… 最後、奴は超時空弾頭爆弾を使って、地球と宇宙は崩壊しかけた」

ゼロはキオにクライシスインパクトの真相やベリアルについて話し

キオ「それで地球は!？」

総司(ゼロ)「そうだな…… ウルトラマンキングが自ら光りになつて崩壊しかけた地球につつま宇宙と共に一時は平和になった」

キオ(三年前にあつたラグラムミスと同じ戦いだ。)

総司(ゼロ)「ともかく俺は今もベリアルについての真相を探してる、まあ妹やクラスメートや幼馴染みにもナイショで」

キオ「僕も同じだよ」

総司(ゼロ)「んじゃ、帰るか、まゆりとユイちゃん達を待たせちゃ困るからな」

まゆり「あつ、あにい、キオさん、終わったんだ」

キオ「うん、ちよつと総司君と2人だけの話を終わったから戻つたよ」

唯犁「なんの話ですか？」

総司「内緒だよ、ユイちゃん達はハーツと何を話してたんだ？」

ウエンデイ「明日、私とキオ、総司君とまゆりちゃんの家に行ってお手伝いしよう」とまゆりちゃんと話したのよ」

総司「それは助かる、だけどボランテイアのアルバイトは？」

キオ「それなら僕が叔父さんに連絡して行くから大丈夫！」

まゆり「やったー！ゆっくりできる」

ウエンデイ「まゆりちゃん、お兄さんに怒られないようにやろうね、甘やかしたら駄目」

まゆり「そんない」

キオ達は帰り道に歩きながら明日の話題に盛り上がり笑った。

付かず、離れず、近づいて！

立石家、まゆりの部屋

総司「……………！」

ゴチン

まゆり「あいたー！」

両手で頭を押さえるまゆりの悲鳴から始まった土曜日の朝。

起きて早々、まゆりの部屋に行ってみれば、案の定。寝ていたまゆりの枕元には大量の漫画が積み重なっていて、その中にうずもれるように、幸せそうな顔で眠っていた。

その幸せそうな顔と散らかった部屋との対比は、不快ですらあった。

昨晚、段ボール一箱分片付けさせたはずなのに、元よりも散らかってるってのはどういうわけだ……………。

まゆり「あいたたた…………… あにい、頭ぼこぼこすんのやめてよー。おバカになっちゃうよー……………」

総司「そうだな、脳細胞が減ってるだろうな」

総司「でも、知ってるか？マイナスにマイナスをかけると、プラスになるんだぞ？ワンチャンあるかもしれないわけだ」

まゆり「んー？いくらあたしだって、中学校レベルの数学はわかるよー……………」

ぱくぱくと豪勢にハムを三枚のせたトーストにかみつぎ、まゆりはまだ眠そうに、もちやもちや食べる。

まゆり「それって、あたしの頭がマイナスってこと!?!」

たっぷり10秒ほど経過して、ようやく俺が言わんとしていることを察してくれた。

さすがはマイナスの脳味噌。草食恐竜並の反応で、お兄ちゃんは悲しくなる。

総司「テストごとに俺に泣きついてきて、赤点ギリギリな子はマイナスです」

まゆり「うぐぬぬぬ。あにいの教え方が上手だから、ギリギリで済んでいます、ありがとうございます！」

悔しがりながらもちゃんとお礼を言える辺りは、できた妹である。勉強はできないけど。

総司「飯食つたら、今日こそは一日中、アスノとハーツが手伝いに来るから一緒にお片付けだからな」

総司「このままじや、ユイちゃんを呼んでも、リビングか俺の部屋にしか入れないだろ」

まゆり「あ、いいじゃん。あにいの部屋で遊ぼうよ」

総司「なんで名案思いついた風なんだよ。よくねーよ。年頃の女の子を、男の部屋になんて入れられるか」

まゆり「昔はあにいの部屋でも遊んでたじゃん？あたしは全然気にしないよー？」

総司「それは妹のお前だからだ。ユイちゃんは気にするだろ」

男慣れしてなさそうなユイちゃんは、えらく恐縮しそうな気がする。

まゆり「あー！あにい、もしかして、エッチなこと考えてる!?ユイちゃんをベッドに押し倒したり!このエッチマン!」

総司(ゼロ)「誰がエッチマンだ!ひどい冤罪だぞ!一言もそんなこと口にしてねえぞ!」

総司(そうだぞ!ゼロの言う通りだ、俺はこんなことはしないぞ)そう、総司は思いつく、こいつがいなくて、ユイちゃんとふたりつきりにでもなったら、ちよっと困るかもしれないと。

ユイちゃん、確かに可愛くなってたからなあ。

俺とて年頃の男だ。女の子と同じ部屋にいたら、ドキドキしてしまう可能性がゼロとは言いきれない。

こいつと三人一緒にいる限りは、そんな過ちも起こさないだろうけ



どぎ。妹が傍にいたら、いやらしい気分になるはずもない。

まゆり「そういうことなら、あたしの部屋は片付けないであにいの部屋で遊ぶって案もなくもない」

総司（ゼロ）「ねえよ。皆無だ。却下だ。俺をダシにして、部屋を片付けたくない理由を作るなよ」

まゆり「だって、部屋掃除、面白くないんだもんー！楽しい部屋掃除の方法ってなんかないー？」

総司「そんな方法があつたら、清掃業者は商売あがったりだよ。ノリのいいBGMでもかけて、ちゃちゃつとやっちまえ」

まゆり「んむうー……わかった。超ノリノリなナンバー……。あにいのオススメの曲とかあるー？」

総司「……急いでやらなきゃいけない気分になる曲ならいくつかオススメがある。あとでCD貸してやるよ」

ピンポン

総司「おっ！アスノが来たか。今開けるー！」

数分後。

まゆり「あはははははは！これ、早くしなきゃいけない気分になるー！」

ウエンディ「これならやれるね！」

そんなわけで我が家の中には、運動会の定番の曲メドレーが大音量で流れていた。

こんなこともあるかと、1枚500円で買っておいたクラシックメドレーCD。本当に役に立つときが来るとは。

総司「だからって、どたどた走らなくなつていいんだよ！早く動かすのは、手だけ！」

まゆり「あいあいさー！速い速ーい！一等、赤組！二等も赤組！三等も赤組だー！」

ウエンディ「まゆりちゃん！実況なんかしないで真面目にやりなさい！終わらないでしょー！」

キオ「はは……ウエンデイに早速怒られたねまゆりちゃん。」

総司「ああ、ハーツがいれば大丈夫だな！」

キオ「さて、僕達は……」

総司とキオも掃除に入り作業を始める、総司は本棚に本を入れ、キオはダンボール整理や総司の手伝いをする。

総司（アスノに気づかれたらヒクかもしれないな、隠そう）

総司はエツチな本を本棚の裏側に隠す

そして小一時間。

キオ「総司君！パソコンの調整も完了出来たよ！」

総司「ありがとうアスノ！助かったよ！」

キオがパソコンの設置と調整して総司の部屋は綺麗になった。

これで客を招き入れても大丈夫。

総司「しかしアスノ……こんなに早くパソコンの調整と設置するなんて凄いな！誰に習ったんだ!？」

キオ「へへ、僕がまだガンダムに乗ってた頃はウツトビットという二つ年上の友達やじいちゃんにパソコンの設置や調整を僕に教えてあげたんだ」

キオは総司にパソコンの調整と設置について話をし。

総司「ん？」

キオ「どうしたの総司君!？」

総司が気づいたのは天井を見上げ。

総司「っしょ……!！」

総司は天井を調べると開いた。

キオ「天井が開いた!？」

総司「ああ、昔、ここから天井裏に入ったんだ。懐かしいな」

総司は天井裏を見ると中は真っ暗だが。

総司「ん？なんだっけ、これ……」

総司が見つけたのはなんとも場違いにクッキーの丸缶が置かれ、それを手にして部屋に戻り、ほこりを拭き取ると表面には――

総司「タイムカプセル……?」

総司は書かれてる文字を復唱してみるが、全く記憶がない。

キオ「それ…… タイムカプセル!？」

総司「ん、ああ…… 天井裏を調べたらあったんだ」

キオ「とにかく開けてみよう!」

総司とキオはタイムカプセルを開けようとする。

総司「あれっ、硬い…… !ぐぬっ!くぬぬっ!」

ゼロ(何だ?開かないのか?そういうことなら!)

総司(ゼロ)「俺に任せろ!おりゃあ!」

ゼロが総司の体を借りて力強く開けた。

総司(ゼロ!そんなに力強く開けるな、中が壊れるだろ!)

総司(ゼロ)「いいじゃんか。開けたからよ」

キオ「ん…… これってまさかウルトラカプセル!？」

キオがタイムカプセルの中身に気づいたらウルトラカプセルが入ってた。

総司「ウルトラカプセル!?俺そんなの入ってたのか!？」

ゼロ(おい、よく見たらコスモスだぞ)

総司「コスモス!？」

そうタイムカプセルに入ってるカプセルはウルトラマンコスモスだった

キオ「こんなのがあつたなんて知らなかったよ…… ともかくまゆりちゃんとウエンデイの整理が終わったら光葉台星雲荘基地で調べてみるよ」

総司「そうだな…… そうしてくれ」

まゆり「うー、あにいい、やっぱり手伝ってー…… ひゃっ!？」

総司「うわっ!」

そのタイミングで総司の部屋に入ってきたまゆりとウエンデイ。

まゆり「なに?クツキー?あにいい、あたしとウエンデイさんナイショでキオさんとこんなの食べようとしてー」

まゆり「つて、うっわあー!懐かしいー!」

総司「懐かしい？まゆり、このタイムカプセル知ってるのか？」

まゆり「知ってるも何も！あにいとー、あたしとー、カナちゃんとかハヤ姉で作ったんじゃないっ！」

まゆり「でも、ダメだよ、あにい。それ大人になった時に開けるって約束してたじゃーん」

総司「そ、そうだったっけ……？」

ゼロ（俺が開いてたけどな）

まゆり「まー、あたしも、今、思い出したんだけど。もうばっちり。

全部思い出したよー」

ウエンディ「ん？総司君……これは何？」

総司「ん？なんだろう」

総司は中を見ようとすると。

まゆり「見ちやダメーっ！」

総司「いてえええっ!？」

まゆりがフタを持って総司の指を上から押さえた。

総司「ばか！痛いだろうが！」

まゆり「見ちやダメに決まってるでしょ！お姉ちゃん達のぷらいばしーのしんがだよ！」

まゆり「どんな恥ずかしいこと書いてるか、わかんないでしょ！中二病こじらせちゃってるかもしれないじゃん！」

キオ「うーくん、確かに五ヶ谷さんや羽耶音先輩に黙って見るのはよくないよ」

ウエンディ「そうよね」

まゆり「よーし！お姉ちゃんたちに聞いてみよっか！二人は覚えてるかなー？」

総司「は？聞いてみようかってー」

まゆりは肌身離さず持つてるスマホをかつこよくシャキン！と、取り出し。

まゆり「あ、もしもしー、ハヤ姉？」

総司「え、ハヤ姉に電話してんの？いつの間に電話番号ー」

まゆり「あにいい、しーっ！あ、こつちの話、こつちの話ー」

まゆり「あ、外にいるんだー？散歩？天気良いもんねー。散歩日和だねー」

まゆり「んでき、今日、そつちに遊びに行っても良いかなーと思つてさ。ウチのあにいと、うん、そうそう！」

まゆり「あにいが天井裏に入れてたタイムカプセル見つけてねー？すつかり忘れてて、開けようしちゃってさー。うんうん、だよねー、よくないよくない」

まゆり「うん、わかった、もうちよつとしたらね。はい、はい、うん、うんっ、あたしも楽しみー！それじゃ、よつろしくうー！」

まゆり「ーつてわけで、あにいい、30分後に出発だー！」

総司「いいや、お前、いつの間に、ハヤ姉と電話番号の交換を……！！？」

まゆり「え？昨日だよ？ハヤ姉の教室に行つて、ひっさしぶりーつて挨拶して、電話番号を覚えてもらったの」

そう、まゆりは昨日、編入初日に羽耶音の3年生の教室に乗り込んで挨拶し、電話番号交換をしていた。

まゆり「ハヤ姉、未だにガラケーなんだよー。3世代くらい前の。laneできないから、電話しなきゃいけないってのは不便だよねー」

まゆり「ホコリまみれで行くわけにいかないよね。シャワー浴びて、綺麗な服に着替えなきゃっ！忙しくなつてきやがったぜー！」

総司は羽耶音の家に行く前にシャワー浴びに行こうとするとウエンデイは気付く。

ウエンデイ「まゆりちゃん、まだ掃除の最中ですよ！」

シャワーを浴びてホコリと汗を流した総司とキオ達は昔の記憶を頼りに五ヶ谷家へと向かうがキオとウエンデイは別のところに行く。

総司「いいか？本当に帰ったら。帰ったら今度こそ、片付けるんだからな？ハーツが少し助けてくれたからな」

まゆり「わかつてるよー、わかつてますよー。わかりすぎてます

よー」

まゆりはわかってるかわかってないか、意地でも片付けないで済む方法を模索。

まゆり「あにいが持つてるの、タイムカプセルのクッキー缶はわかるけど、そっちは本物のクッキー?」

総司「久しぶりにお宅にお邪魔するんだから、手ぶらってわけにはいかないだろ。引越しの御挨拶だよ」

まゆり「ちよつとお高そうなクッキーだね。楽しみい!」

総司「お前に食わせるために持ってきたわけじゃないからな?」

ゼロ(こいつ……クツキーを食うのが意地張りだな)

総司とまゆりは道中に歩き、無事に五ヶ谷家へと到着。

#### 亀有市街地公園

子供「わあ、ゴメスだ〜可愛い!」

女子供「ゴメス〜!」

ゴメス「ギャオオ!」

公園で古代怪獣ゴメスが子供達とふれ合うように優しく楽しむ

両津「ゴメスを連れてきてくれてありがとな麗子……子供達も喜んでるぞ」

麗子「いいのよ両ちゃん、子供達もゴメスとふれ合ってる姿を見て私は嬉しいわ」

キオ「あれ?麗子さんと両さん!」

麗子「あら、キオ君、ウエンデイちゃん、どうしてここに!?!」

ウエンデイ「子供達が怪獣と賑やかに聞こえて見てたら見かけてました」

両津「お前らこそ……何何してたんだ朝から?」

#### 数分後

両津「ハハハ、お前らの学校の転校生の家に手伝いに行ってたのか」  
キオ「はい、昨日の帰り、総司君という転校生と圭助君と一緒に話

をしながら今日は立石家にお邪魔してお手伝いに来ました」

ウエンディ「総司君の所とりビングの方はキオと総司君が終わり、妹のまゆりちゃんの方はまだ途中だったんですよ」

麗子「そうだったの… 大変だったわね」

キオ「いえ、もうボランティアのアルバイトに慣れました… 麗子さん、ゴメスについて説明したいです」

麗子「ゴメスの事ね… 実はあのゴメスは去年、両ちゃんが拾ってきた怪獣なのよ」

両津「ああ、わしとヒョン吉がパトロールしているときに亀有近くの町にゴメスが泣き叫んだんだ、わしとヒョン吉は心配だから説得してヒョン吉が鳴くとゴメスの奴… わしとヒョン吉に懐いたんだぜ」

麗子「現在、両ちゃんの企画で私の会社と圭ちゃんの会社と協力して子供達や皆のためのふれあい怪獣園を建設してるのよ」

麗子はキオにふれあい怪獣園の書いた紙を見せ

ウエンディ「わあゴメスの絵が可愛い♡」

両津「へへ、わしが書いたんじや、子供たちのイメージアップの為、ガラモンやシーボースも書いたぞ」

キオ「両津さん、絵を描くの得意ですね」

麗子「でしょ？両ちゃんは子供たちの為に一生懸命に絵を書いてたわよ」

キオ「そうだ… 光葉台青雲荘に行かないと」

麗子「ん？もう行くの？」

キオ「はい、総司君の部屋にウルトラカプセルが見つけたからレムに頼んで分析に行きます、これです」

キオは両津と麗子に手に入れたウルトラカプセルを見せる

ウエンディ「キオ… いつの間にそのカプセルを手に入れたの!？」

キオ「うん、ウエンディとまゆりちゃんが総司君の部屋に来る前に

タイムカプセルを開けたらウルトラカプセルが入ってたから」

一方、五ヶ谷家では

羽耶音「昔つからの仲良しさんなんだから、全然、気にしないでいいのよ〜?」

まゆり「そうだよ、あにい。ハヤ姉とカナちゃんは、第二の家族みたいなものでしょ〜?」

羽耶音「わたしは、ソウ君が遠慮してる方が気になっちゃうな〜?」

総司「そ、そうですか……?」

総司とまゆりは五ヶ谷家の奏撫の部屋で奏撫と羽耶音と一緒にクッキーを食べながらお茶を飲み、話をする

羽耶音「ほら、今だつて『そうですか?』なんて敬語だし〜。カナちゃんのことだつて『五ヶ谷さん』つて」

羽耶音「昔はも〜つと、ハヤ姉ハヤ姉つて懐いてきてて、可愛かったのにく。あんまり他人行儀だと、カナちゃんだつて、寂しがっちゃうよ〜?」

総司「そ、そりゃあ、俺だつて大きくなりましたから……。いつまでも昔みたいな関係じゃいられないでしょう?」

ゼロ（確かにな。）

羽耶音「今更、他人ぶるのはずるいよ〜?わたしのファーストキスは、ソウ君だったのにく」

総司「ぶっ!?!」

飲みかけのぬるくなった紅茶で唇を潤そうとした矢先、再びハヤ姉からの強烈な不意打ち。

厚めの唇を指先で押さえる悩ましげなポーズが、ハヤ姉に似合つていて、その実に、なんだ……。いやらしい。

羽耶音「私だけじゃないよね〜?カナちゃんのファーストキスも、ソウ君がもらっちゃったんだよね〜?」

総司「いや……。まあ……。はい……。そう……。てすね?」



羽耶音「ソウ君は、責任を取らないといけないの。だから、敬語は禁止」

ゼロ（ははは、言われてるな！）

総司（ゼロは黙ってよ！）

そう。そうなのだ。

俺は前にここにいた当時、五ヶ谷さんとハヤ姉に、まるで欧米の挨拶のようにキスをしまくっていた。

万年ラブラブカップル、朝も夜も顔を合わせる度に、西洋かぶれでチュツチュと子供の前でもキスをしていた両親の悪影響、幼馴染みとはいえ、美人姉妹のファーストキスを奪ってしまった行為を、悪影響と言わずして、何と言えばいい。

キスという行為が、特別な意味を持つなどと知らずに、『おはようございませう』『さようなら』と気軽に交わっていた。

でも、いつしか、この行為は、そんな気軽にしているものではないと気付き、自然とやめるようになって。

それと同時に、俺と五ヶ谷家の間に、何を言ったわけでもないのに、自然と距離ができて。そして、そのまま引越してしまい、数年の時間が空き、昨日、戻ってきた。

羽耶音「わたしたちのことが嫌いになったわけじゃないよね？」

総司「そ、それは、もちろんですよ……！ただ、距離の取り方がわかんなくなっちゃっただけっていうか……」

昔から近所でも評判の可愛い姉妹だったけれど、数年たった今、二人揃って美人姉妹になってしまい、コンビで出会ったカナちゃんにも面食らってしまったし、なんというか、近づく難しく、恐れ多くすらあるのだ。

羽耶音「良かった。ソウ君に嫌われちゃったと思って、心配だったのよ？ね、カナちゃん？」

奏撫「うん……でも、ソウ君の気持ちはわかるよ。大きくなるよ、女の子と男の子に明確な差が出てきちゃうもんね」

奏撫「体格差が出てくると遊びづらくなるし、混ざりにくくなるし……異性のグループと遊んでると、からかわれたりするもんね」  
ちよぼちよぼと紅茶をカップに注ぐ奏撫は言う

羽耶音「そんなの、全然気にしなくたっていいのよ。また昔みたい  
に、たくさんお話ししようね、ソウ君」

総司「そ、そうですね、ご迷惑でなければ……」

奏撫「迷惑なわけないよ。教室でももつと話しかけてくれると嬉しいな」

奏撫「はい、紅茶。まだ熱いから、火傷しないでね」

総司「あ、ありがとう、五ヶ谷」

奏撫「奏撫でいいよ？お姉ちゃんも私も五ヶ谷なんだから」

羽耶音「ややこしくなつちやうもんね。でも、なんで私の事はハヤ姉って呼んでくれたのかな？」

総司「そりや……ハヤ姉は……ハヤ姉だからですよ」

羽耶音「敬語」

総司「そう……ハヤ姉……だから」

奏撫「ありがとうソウ君」

ゼロ（総司の奴……2人の姉妹にモテモテだな）

光葉台青雲荘では

キオ「……………」

キオ達はレムに頼んで手に入れたウルトラカプセルの分析中

ペガ「新しいウルトラカプセル、総司の家の天井にあったなんて凄  
いよ」

キオ「うん、総司君がタイムカプセルを見つけてゼロが開けたら  
入ってたんだよ」

レム「分析完了しました、ウルトラマンコスモスのカプセルは使え  
ます……ですが」

「ウエンディ「ですが？」

レム「このカプセルが使えるのは優しい心を持つてるリトルスターの人物がいないと使えません」

リト「そうなんだ……うくん、優しい心かー」

ビービービー

ペガ「うわっ！何だ!？」

レム「亀有公園近くの町に怪獣が現れました、映像を映します！」  
レムがキオ達に映像を見せると亀有公園近くの町にアーストロンが襲撃。

キオ「怪獣!？」

レム「はい、解析によりますと凶暴怪獣アーストロンです」

ウエンディ「キオ、見て！」

キオ達が見えたのはアーストロンと対決するゴメスの姿が見える

キオ「ゴメス？皆を守る為に戦ってる!？」

ペガ「キオ見て！」

亀有公園近くの町

アーストロン「ギャオオオ！」

ゴメス「グオオオオ！」

ゴメスは亀有公園近くの町にいる皆を守るために戦う

男子供「ゴメスー、頑張れ！」

女子供「負けないで！」

ゴメス「グオオオオ！」

アーストロン「ギャオオオ！」

アーストロンは口から炎攻撃をゴメスに向けて放ちゴメスは攻撃をうける

両津「ゴメス！」

キオ「両さん！」

両津「キオ？どうしてここに!？」

キオ「光葉台青雲荘でゴメスが皆を守るところを心配だから地下のエレベーターで来ました!」

麗子「ここじゃ危ないわ、皆を避難させないと!」

ペガ「僕も手伝うよ!」

キオ「よし、ペガは両さん達と一緒に子供達をお願い、僕はゴメスを守るよ」

両津「任せたぞキオ」

麗子「お願いね…：皆、逃げるわよ!」

両津と麗子とペガは子供達を安全なところへ避難

キオ「ゴメスは子供達や皆が懐く怪獣だ…：僕が守る!」

キオ（融合!）

ウルトラマン 《シュワ!》

キオ（アイ・ゴー!）

ウルトラマンベリアル 《ヘアアア!》

キオ（ヒア・ウイゴー!）

《フュージョンライズ!》

キオ（決めるよ覚悟!はー、はっ!）

キオ（ジイイイド!）

《ウルトラマン!》

《ウルトラマンベリアル!》

《ウルトラマンジード、プリミティブ!》

ジード『シュワ!』

キオはジードにフュージョンライズしてアーストロンに向かってパンチし倒れたゴメスを立ち上げるように支える

男子供「あつ、ウルトラマンジード!」

女子供「ゴメスを守って」

アーストロン「ギャオオ!」

ジード「シユワ！」

キオはゴメスに向けてキックやパンチし、アーストロンも負けずにしっぽやクロー攻撃

両津「ジード、子供達の為に負けるなよ！」

ジード「シユワ！デュア！」

アーストロン「ギャオオ！」

ジード『レツキングリツパー！』

アーストロン「ギャオオ！」

アーストロンは火球攻撃し、キオはアーストロンに向けてレツキングリツパーだがアーストロンが放つ火球攻撃はゴメスに当たる

ゴメス「ギャオオオオ！」

キオ（ゴメス？やめろー！）

ジード「シユワ！」

アーストロン「ギャオオ！」

ジード「デュア！」

アーストロンは反撃しキオに向かってしっぽ攻撃しビルまで吹き飛ばす

ゴメス「ガオオオオ！」

アーストロン「ギャオオ！」

ジード「ゴメス？駄目だよ……戦っては駄目だ！」

ゴメス「ガオオオオ！」

ゴメスはキオの言葉を無視して戦う、子供達や両津達を守るためにアーストロン「ギャオオ！」

アーストロンは連続火球攻撃し、ゴメスは倒れた

アーストロン「ギャオオ！」

キオ（ゴメス、危ない！）

ジード「シユワ！」

キオはアーストロンがゴメスにトドメの火球攻撃を放つ瞬間に前に立ってバリアを張り、ゴメスを守る

ピコンピコンピコン

キオ（僕はまだ負けない…… 子供達や両さん達の友達のゴメスを僕は守る！）

男子供「頑張れ、ウルトラマンジード、ゴメスを守って！」

女子供「私達もジードを応援する、ゴメスも」

子供達全員「頑張れジード！ゴメス！」

両津「負けるなよジード！」

ペガ「頑張れジード！」

麗子「皆も応援してるわ、頑張って！」

ウエンデイ「頑張って！」

ウエンデイ達はキオとゴメスを大きな声で応援

ゴメス「ガオオオオ！」

キオ（ゴメス!?!）

ゴメスが叫ぶと体からリトルスターが発生し、ゴメスの体から離れジードのカラータイマーに入った

キオ（もしかして…… ゴメスからリトルスター!?!）

リトルスターはキオのカプセルホルダーに入り、開けるとコスモスのカプセルが光った

レム（コスモスのカプセルが使えるようになりました、これでフュージョンライズ出来ます）

キオ（よし、この二つでフュージョンライズだ!）

キオ（融合!）

ウルトラマンヒカリ《デエア!》

キオ（アイ・ゴー!）

ウルトラマンコスモス《シュワワワ!》

キオ（ヒア・ウイゴー!）

《フュージョンライズ!》

キオ（見せるよ衝撃、はー、はっ!ジイイイド!）

《ウルトラマンヒカリ!》

《ウルトラマンコスモス!》

《ウルトラマンジード、アクロスマッシャー!》

ジード「はー!」

ペガ「わああ、ジードの姿が変わったよ!」

両津「しかも青色になってるぞ」

両津とペガは新しいフュージョンライズしたジードを注目

アーストロン「ギャオオ!」

ジード「はっ!」

アーストロンが放つ火球はゴメスに向かう瞬間、キオは右腕部分から光の剣が出て火球を真っ二つに切る

アーストロン「ギャオオ!」

ジード「シユワ!」

麗子「アクロバティックな動きをするなんて凄いわね」

両津「ああ、あのジード、良い動きをするな」

アーストロン「ギャオオ!」

ジード「はー、はっ!」

キオはアーストロンのしっぽ攻撃や爪攻撃をバク転しながら避け

ジード「ゴメス…:今から傷を治すよ」

ジード『スマッシュムーンヒーリング』

ゴメス「ガオオオオ!」

キオは右手から放つ優しい光をゴメスに浴びるとゴメスの傷が完全に治った

男子供「ゴメスの傷が治った!?!」

女子供「ありがとうウルトラマン」

キオ（よし行くぞ!）

ジード「シユワ!」

♪〜GEEDの証〜♪

ジード「はっ！」

アーストロン「ギャオオオオ！」

キオはゴメスの傷を治してアーストロンと対決を再開

ジード「シユワ！」

キオはまた光の剣を右腕部分から出てアーストロンに向けて振り  
攻撃

アーストロン「ギャオオオオ！」

ジード「これでもくらえ！」

キオはアーストロンの角めがけて剣攻撃して折り、アーストロンは  
角が折れてふらふらになり

キオ（よし…… 今だ！）

ジード「アトモスインプクト！」

キオは水平にたてた右手と左手をクロスした波動光線でアースト  
ロンに命中し撃破

子供達「ありがとうウルトラマン！ゴメス！」

ゴメス「ガオオオオ！」

ゴメスは子供達の感謝に喜んで叫んだ

キオ（ゴメス…… 良かったね、子供達の為にありがとう）

ジード「シユワ！」

ユーリ「ほー…… 僕が出したアーストロンを倒すなんてやるねア  
スノの孫、次の戦いは楽しみだよ」

そうさっきのアーストロンは小野ユーリが怪獣カプセルで召喚し  
た怪獣だった

総司 side

夕方



五ヶ谷家玄関

キオが亀有でアーストロンと戦ってる時、数時間の間タイムカプセルの話や思出話をし、帰るところ

総司「長々とお邪魔しちゃって……」

奏撫「ううん、全然気にしないでいいんだよー。本当に夕飯食べていってもいいくらいなのにー」

羽耶音「カナちゃん、お料理すつごく上手になったんだよー」

羽耶音「そうだ、今度、お惣菜たくさん作って、ソウ君の家に持って行ってあげたら〜?」

まゆり「あー、食べたい食べたい。カナちゃんの手料理、いいですなー!」

総司「まゆりがなんにもできないから、そうしてもらえるとすごく助かるよ。俺も作ってるけど、どうしてもワンパターンになっちゃうからさ」

まゆり「あたし、あにいの作るご飯も大好きだよー。肉とニンニクのザ・男飯!って感じ!胃袋にガツーンと来るのです!」

奏撫「私が作るのは、そういうのじゃないな……。切り干し大根とか…… ひじきの煮物とか……。地味なのばかりなんだけど」

総司「おっ、そういう家庭料理、大歓迎。今度作ったら、是非食べさせてよ」

ゼロ（良いね、じゃあ俺は総司の体で食べるぜ!）

奏撫「う、うんっ、今度作ったら持っていくね!」

まゆり「それじゃ、また来週ー!あにい、晩ごはん買って帰ろ」

総司とまゆりは、家に帰り、夜になってコンビニで買ったご飯とカップ麺を食べ、運動会のBGMを鳴らしながらまゆりの部屋掃除を何とか終わったのだった。